



装置取り扱い補足資料 第3版

Integrity , MOSAIQ , iViewGT , XVI , iGUIDE

*本ドキュメントはトラブル対応時やソフトウェアの操作方法の補助を目的とした資料です。

ユーザーマニュアルに置き換わるものではないことにご注意ください。

*ソフトウェアのバージョンや装置の構成などの違いにより

表示画面や使用方法が異なる可能性があります。

*本ドキュメントに関してご不明な点がございましたら、

エレクタケアサポートセンターにお問い合わせください。

エレクタケアサポートセンター (ECSC)

Tel : 0120-659-043

Email : ecsc@elekta.com

FAX : 03-6436-4233

目次

1 Integrity	1
1.1 「TERMINATE」キー使用後の操作方法	1
1.2 「iCom Client timeout」が表示される.....	4
2 MOSAIQ	5
2.1 MOSAIQ サーバーの再起動.....	5
2.2 複数処方（治療部位が複数）の場合の設定方法①（診断と治療）	7
2.3 複数処方（治療部位が複数）の場合の設定方法②（治療カレンダー）	10
2.4 MOSAIQ から XVI にデータをロードする	12
2.4.1 Synergistiq モードでのリファレンスデータロード	13
2.4.2 非 Synergistiq モードでのリファレンスデータロード	14
2.5 コースが複数ある場合の治療カレンダー作成方法	15
2.6 治療カレンダー変更方法.....	16
2.7 治療 RIS にプランが送れない	17
2.8 照射していない Field の削除（治療カレンダー）	19
2.9 電子線 Field の作成方法.....	21
2.10 ガードリーフを考慮した照射野作成方法	22

2.11 照射前のリマインダー機能（例：ポータスを照射前に確認する）	24
2.12 AFS の条件（CFS 設定が ON のご施設）	26
2.13 2D マッチング（1 枚の写真のみで照合）の条件	27
2.14 2D-2D マッチング（2 枚の写真を使用して照合）の条件	28
2.15 患者の ID 写真を表示、非表示	29
2.16 「このアプリケーションの登録は無効になっています。・・・」が表示される	30
2.17 「Energy : Mismatch text」が表示される	31
2.18 「ATM Interface Initialization failed」が表示される	33
2.19 「装置通信タイムアウト」のメッセージが表示される	37
2.20 ガイドライン(祝日/照射日等)の設定	38
3 XVI	45
3.1 CT データが削除できない	45
3.2 同じ患者で複数の CT データをインポート	47
3.3 CT をインポートできない	48
3.4 CT データを他のワークステーションに送る	50
3.5 CBCT を DICOM 画像としてメディア（USB など）に保存する	52

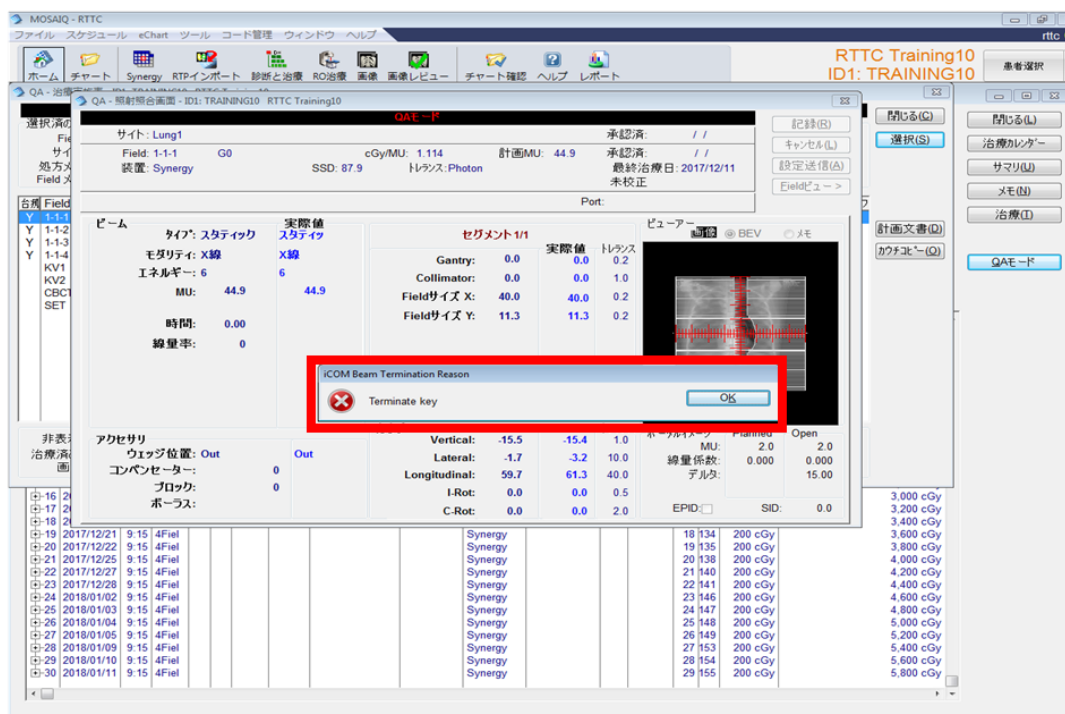
3.6 Preset (撮像条件) の編集方法 (CBCT の場合)	54
3.6.1 プリセットの有効化.....	54
3.6.2 管電圧の変更	56
3.6.3 mA、mS の変更.....	57
3.6.4 フレーム数の変更	58
3.6.5 再構成厚の変更.....	59
3.6.6 画質(空間分解能)を上げる (下げて再構成の時間を減らす)	60
3.7 画像データのアーカイブ/リトリブ	62
3.7.1 アーカイブに費やす時間.....	62
3.7.2 患者データのステータス.....	64
3.7.3 テープ容量	64
3.7.4 アーカイブ方法	65
3.7.5 リトリブ方法.....	72
3.8 「Unable to raise Desktop XVI inhibit.」 のメッセージが表示される	74
3.9 「No bone or insufficient tissue detected in the clipbox for bone registrarion. . . .」 のメッセージが表示される	75

4. iViewGT	76
4.1 画像を DICOM データとしてメディア（USB など）に保存する	76
4.2 Exposure（撮影）のボタンがクリックできない	80
5. iGUIDE.....	81
5.1 アライメントチェックでレーザーとリファレンスフレームが合わないとき	81
5.2 スクリーンキャプチャーした画像の保存先.....	82
5.3 手動転送方法	83
6. ExacTrac.....	85
6.1 MOSAIQ から ExacTrac へのデータ転送方法	85

1 Integrity

1.1 「TERMINATE」キー使用後の操作方法

FKPの「TERMINATE」キーを押し、治療を中断するとMOSAIQ上に「Terminate Key」のメッセージが表示されます。



照射を終了する場合は「Terminate Key」のメッセージウィンドウでOKをクリックし、

照射照合画面を閉じます。照射し終わったMU値はMOSAIQに保存されています。後で

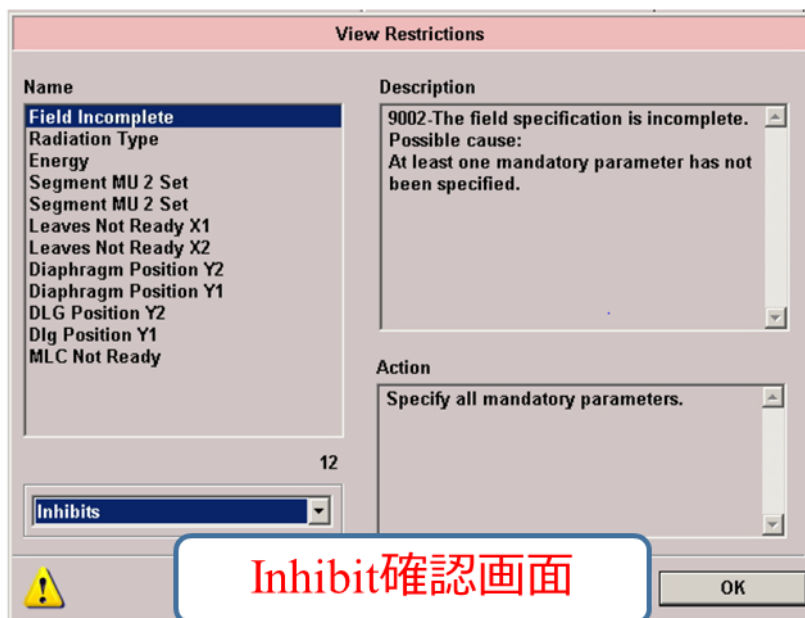
残っているMU値のみで照射することは可能です。

照射を続行する場合は以下の手順を実施してください。

1. 「TERMINATE」キーを押し戻し、赤い LED の点灯を解除します。

2. Integrityのinhibitを確認すると「Reset Required」と要求されています。

BMDMのボタンを押すことで解消されます。



3. Integrityのinhibitを確認すると「Reset motors」と要求されています。

治療室に入り、ハンドヘルドコントローラーの「Reset Motors」のボタンを押すことで解消されます。

4. MOSAIQ上の「Terminate Key」のメッセージウィンドウでOKをクリックします。

5. 「MU予定していた照射量より少ない照射です。〇〇MUが残っています。残りを照射しますか？」のメッセージが表示され、「はい」をクリックします。



6. 照射照合画面のウィンドウが立ち上がり安全を確認後、照射を行います。

* 残りのMU値が正しいか必ず確認してください。

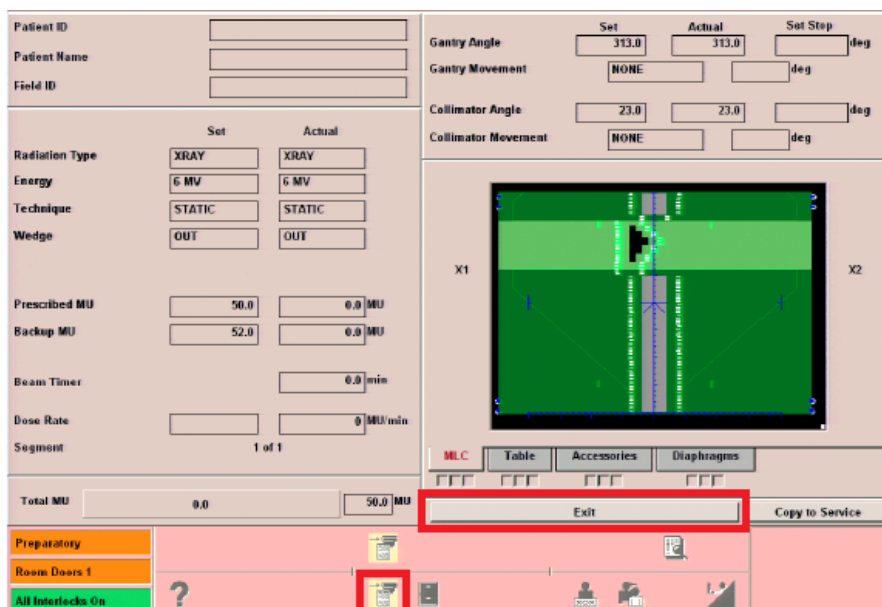


1.2 「iCom Client timeout」が表示される

リニアックと他の端末との通信が切れている可能性が考えられます。

(対応策)

1. MOSAIQのアプリケーションを閉じます。
2. リニアックのステータスをExitをクリックして「Closed」にします。
3. リニアックのステータスをReceive External Prescriptionをクリックして「Preparatory」にします。



4. MOSAIQのアプリケーションを立ち上げます。

* 上記を実施しても改善されない場合は、リニアックの再起動を実施してください。

2 MOSAIQ

2.1 MOSAIQ サーバーの再起動

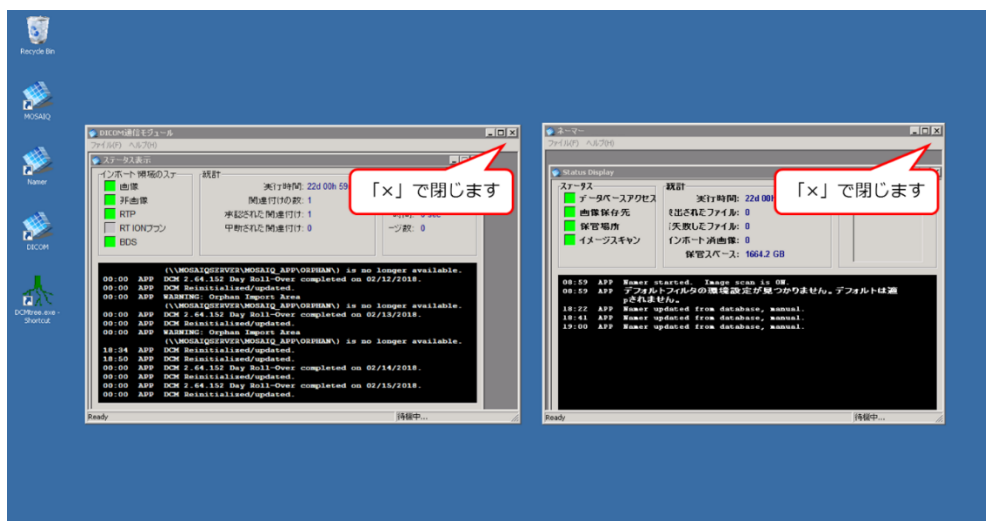
サーバーを再起動している間はMOSAIQアプリケーションを使用できません。

クライアント、シーケンサー、すべてのMOSAIQのアプリケーションを終了したのちに再起動を実施してください。ご不明な点がある場合は、事前にコールセンターにお問い合わせください。

[再起動の手順]

1. MOSAIQサーバーのデスクトップにある、「DICOM通信モジュール（DCM）」

「ネーマー（Namer）」をそれぞれ閉じます。



2. スタートメニューから「Restart（再起動）」を選択します。

*再起動時にファンが高速で回転し大きな音が生じますが異常はありません。再起動開始後、10分程で再起動が終了します。

*再起動後はMOSAIQサーバーの再ログインする必要があります。

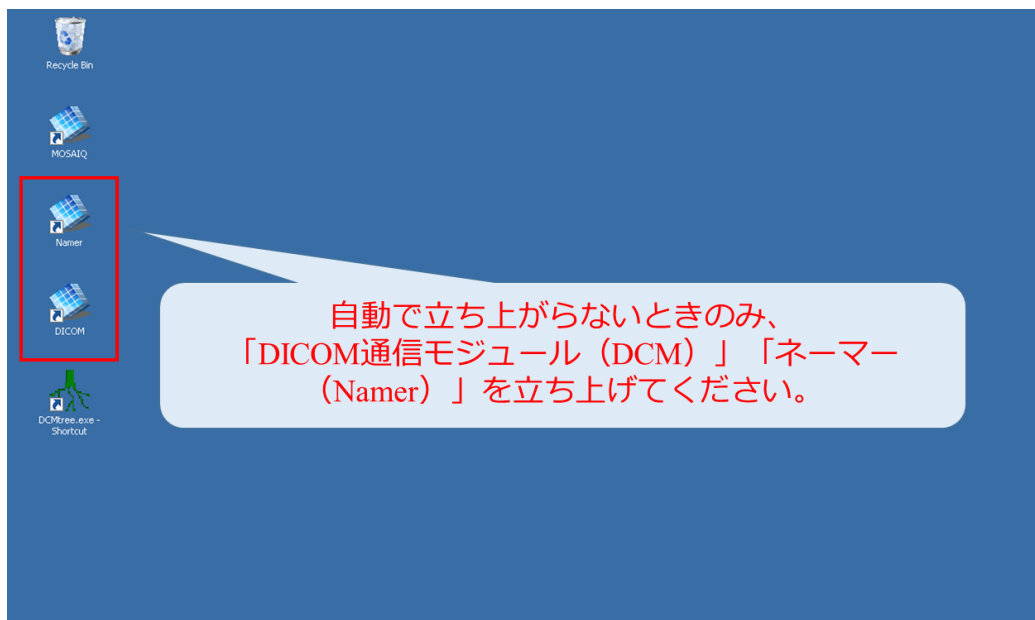
- 再起動終了後、ユーザーネーム、パスワードを入力しMOSAIQサーバーにログインします。

ユーザーネーム : Administrator

パスワード : Password!

- 「DICOM通信モジュール (DCM) 」 「ネーマー (Namer) 」 が自動で立ち上がりま
- す。

*自動で立ち上がらない場合は、デスクトップにある「DICOM通信モジュール (DCM) 」 「ネーマー (Namer) 」 を立ち上げてください。



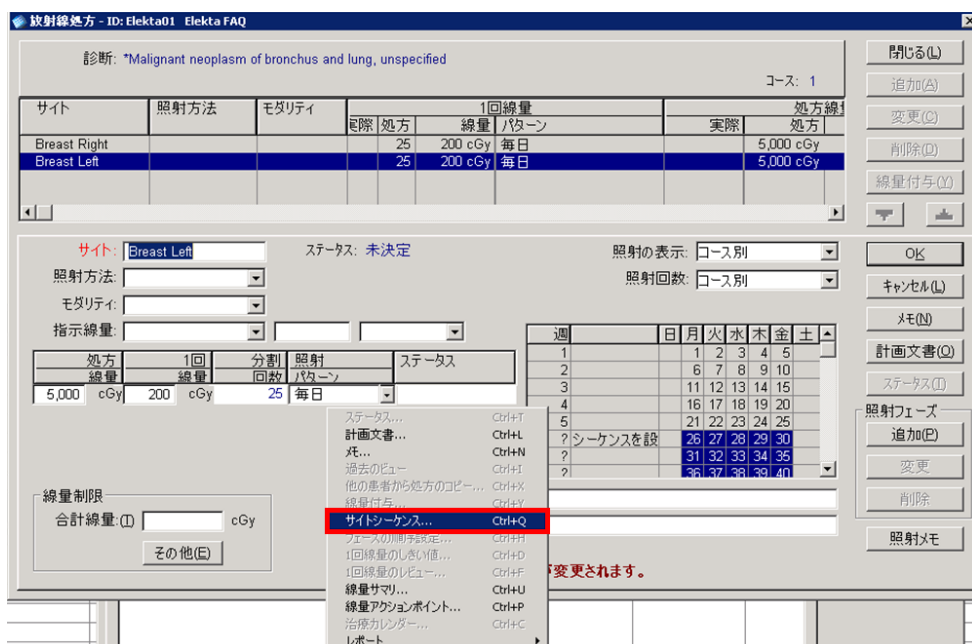
2.2 複数処方（治療部位が複数）の場合の設定方法①（診断と治療）

RTP インポート後、放射線処方の画面から 2 部位目以降の開始日を決定できます。

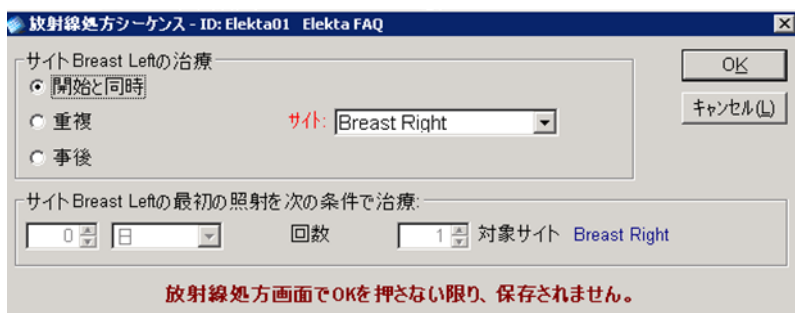
1. 放射線処方を開き、2部位目を選択後、変更をクリックします。



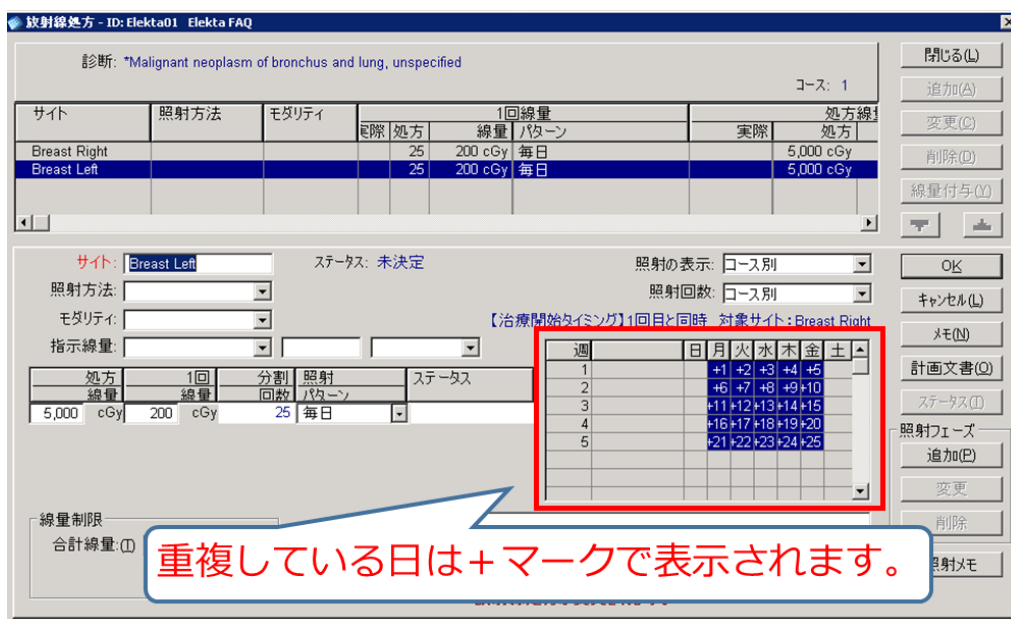
2. 右クリック > サイトシーケンス をクリックします。



3. 「開始と同時」、「重複」、「事後」の中からいずれかを選択します。



「開始と同時」を選択し「OK」をクリックすると、1 部位目と 2 部位目の開始日が同じになります。



「重複」を選択すると2部位目を特定の開始日に設定できます。

日にち単位と回数単位で変更が可能です。

・日にち単位の場合

①重複を選択

②日数(時間)を指定例) 3日

例) 4日目の照射から重複します

・回数単位の場合

①重複を選択

②回数を指定例) 6

例) 7回目の照射から重複します

「事後」を選択すると、1部位目照射後に設定できます。

①事後を選択

②日数(時間)を指定

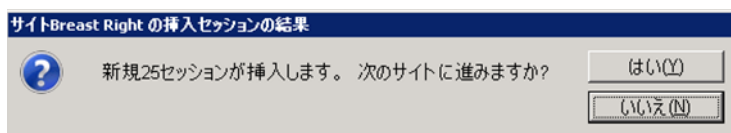
2部位目が1部位目照射後に登録されます

2.3 複数処方（治療部位が複数）の場合の設定方法②（治療カレンダー）

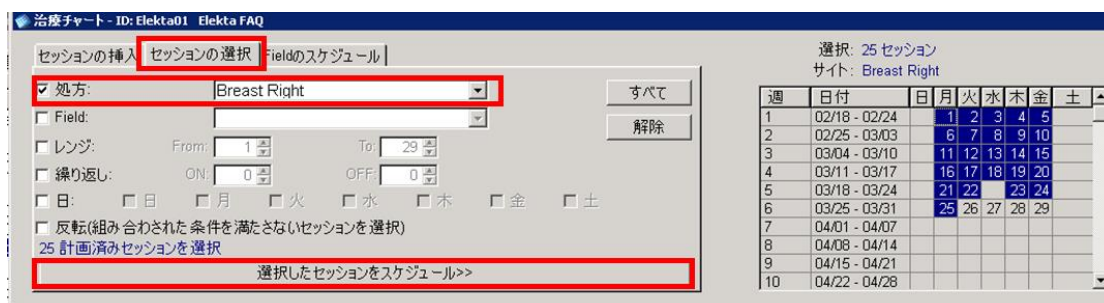
1. RO治療のアイコンをクリックし、治療チャート画面を開きます。
2. 治療カレンダーをクリックします。
3. コースから次の処方を選択で「すべて」を選択し、「コースにセッションを挿入」をクリックします。



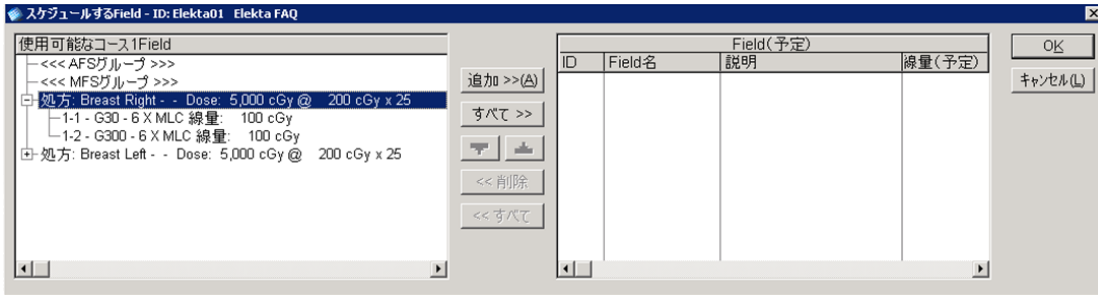
3. 確認画面が表示され、「OK」をクリックします。



4. 「セッションを選択のタブ」をクリックします。1つ目の処方を選択し、「選択したセッションをスケジュール」をクリックします。



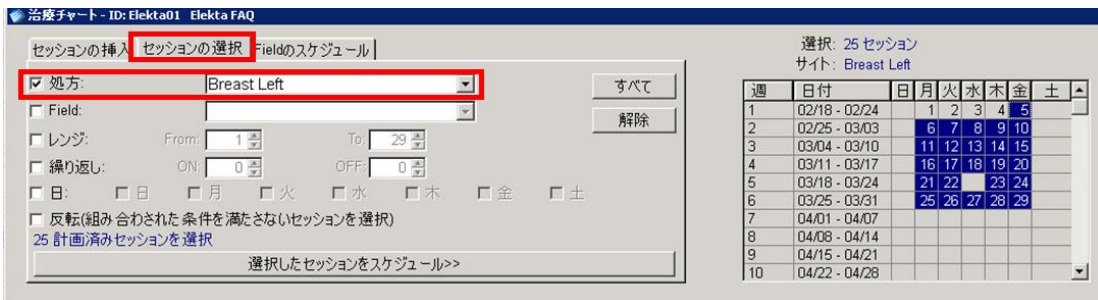
5. Fieldのシーケンスを設定します。



6. スケジュールしたFieldが表示されます。適用をクリックすると、1部位目のFieldがスケジュールされます。



7. 再度「セッションの選択」タブをクリックし、処方に2部位目の処方を選択します。



8. 5から8の手順を再度行います。

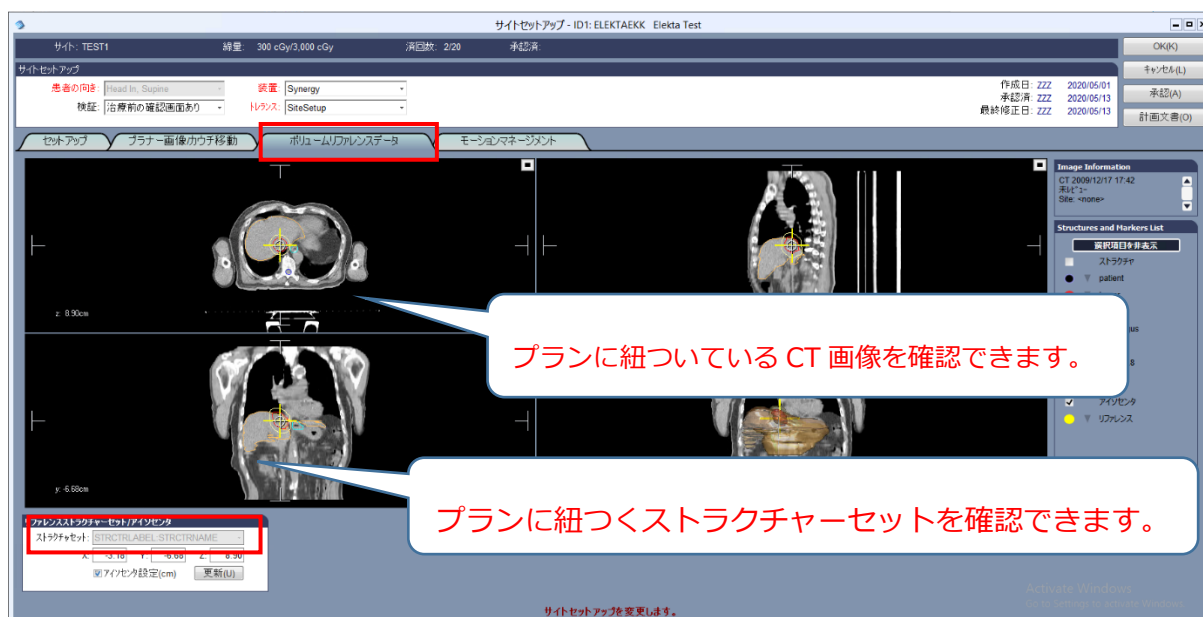
2.4 MOSAIQ から XVI にデータをロードする

MOSAIQからXVIに、「Plan、CT、Structure Set」を転送する方法を記載します。

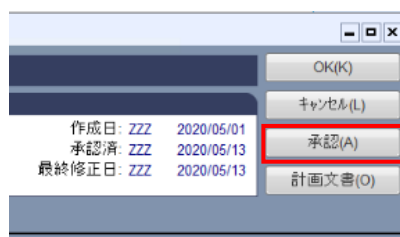
Synergistiqモード(MQシーケンサーとXVIを連動させて使うモード)と、**非Synergistiq**

モード(MQクライアントからの転送モード) の、それぞれの方法を記載します。

※ **あらかじめ「プラン情報、CT画像、ストラクチャーセット」がMOSAIQに取り込み/登録してある必要があります。** 該当処方サイトのサイトセットアップ内の「**ボリュームリファレンスデータ**」タブで、プラン情報、CT画像、ストラクチャーセットが紐ついて登録できているか確認いただけます。



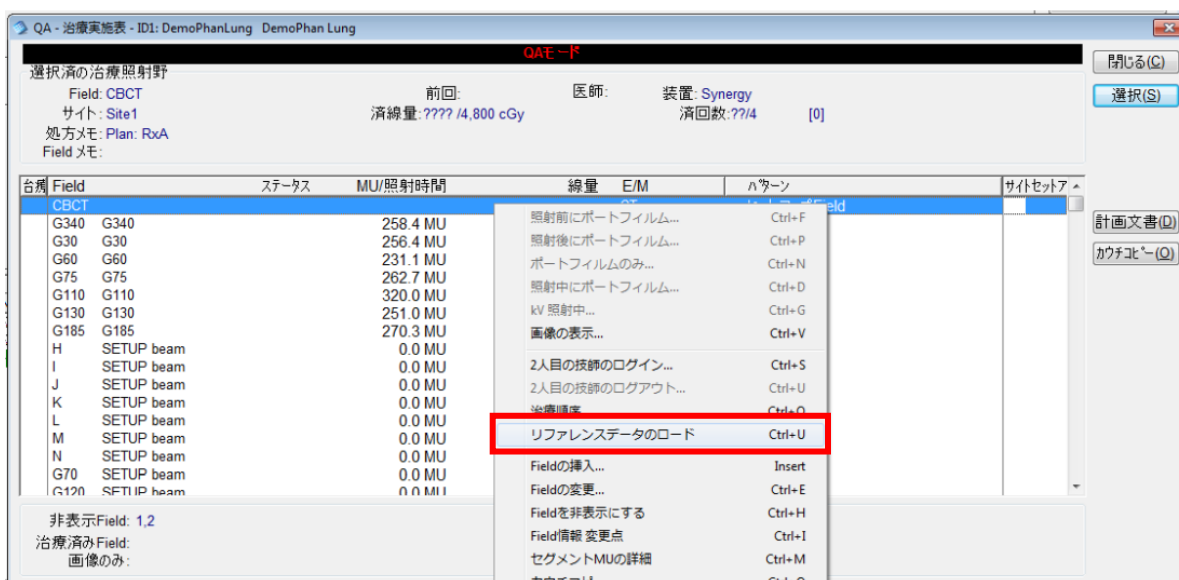
※ また、**あらかじめサイトセットアップを承認**しておく必要があります。



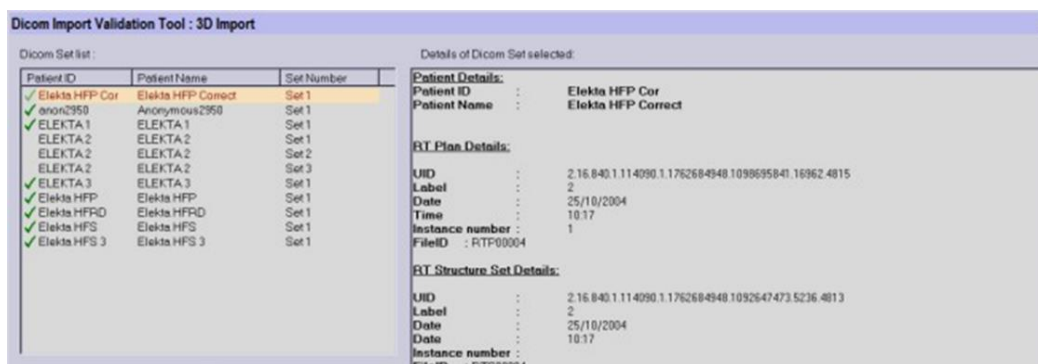
※一度サイトセットアップを承認してしまうと、サイトセットアップを削除できなくなることにご注意ください。

2.4.1 Synergistiq モードでのリファレンスデータロード

1. MOSAIQ シーケンサーで、RO 治療> 治療/QA モード> 治療実施表> 右クリックから「リファレンスデータのロード」を実施します。処方が複数ある場合はそれぞれの処方毎に実施して下さい。

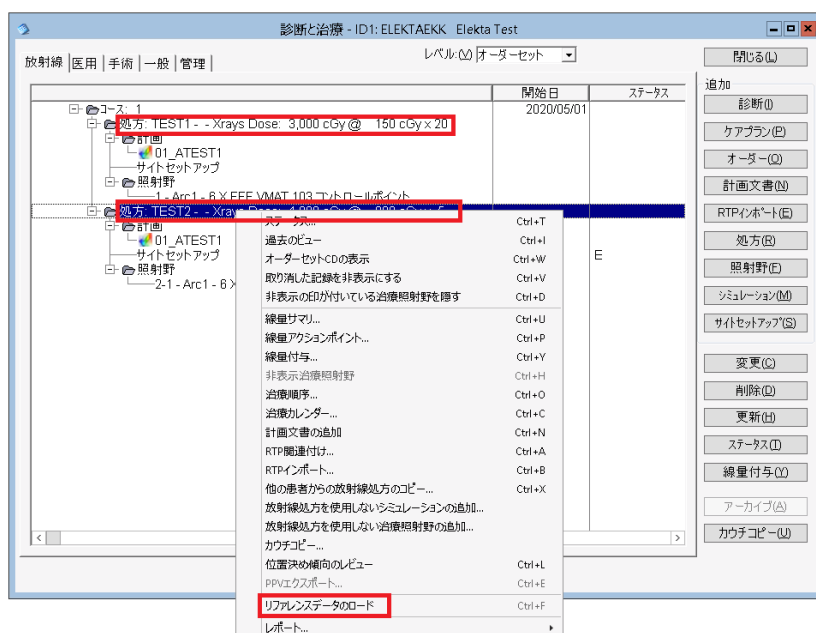


2. XVI に画像取り込み画面が表示されます。

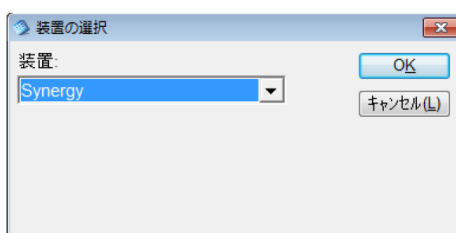


2.4.2 非 Synergistiq モードでのリファレンスデータロード

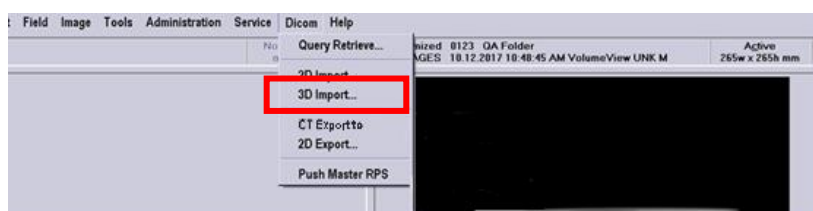
1. MOSAIQ クライアントで、診断と治療> 転送したい処方を選択し、右クリックから「リファレンスデータのロード」を実施します。処方が複数ある場合はそれぞれの処方毎に実施して下さい。



2. [装置]ドロップダウンリストからリファレンスデータの送信先の装置を選択します。



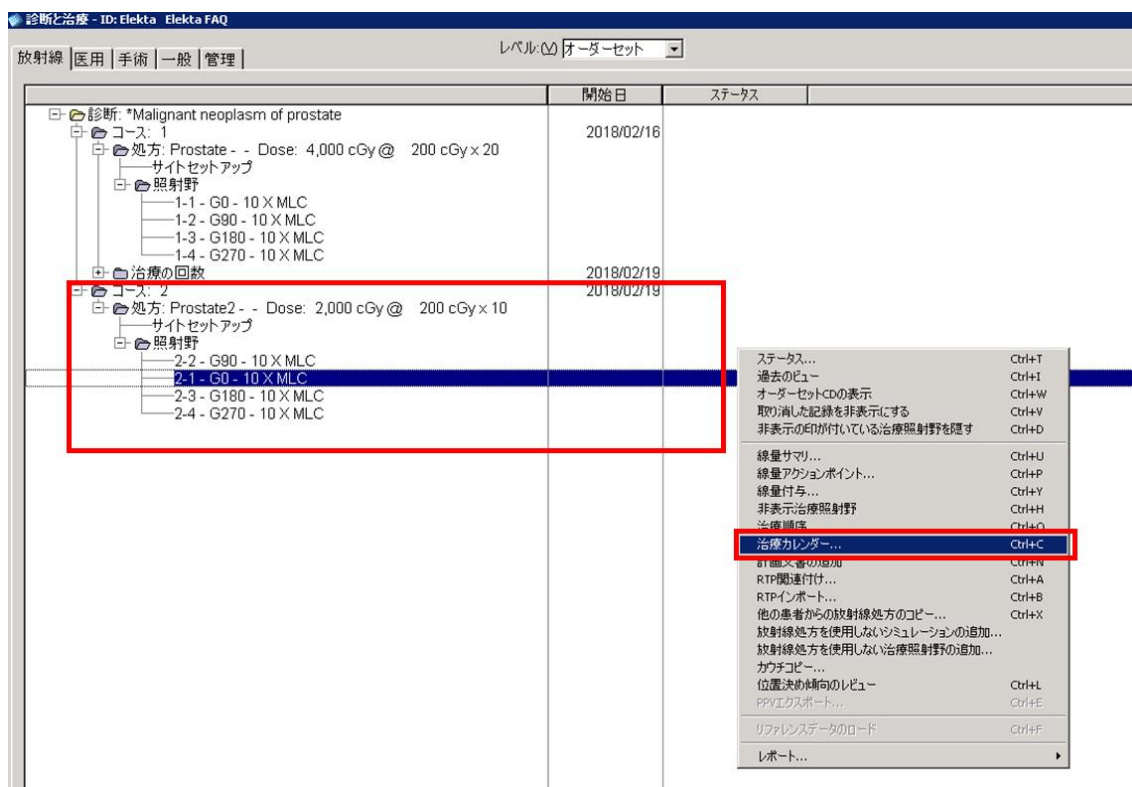
3. XVI で、DICOM> 3D Import から取り込みます。



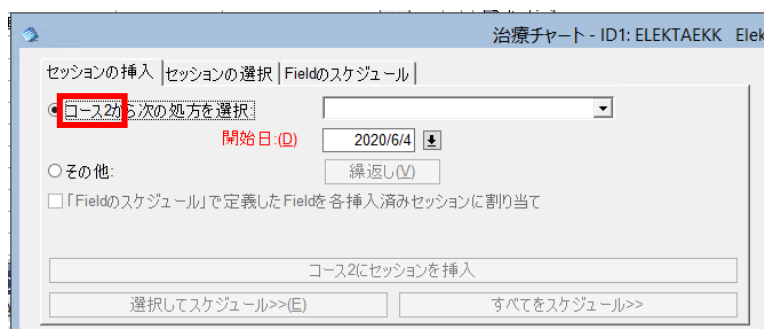
2.5 コースが複数ある場合の治療カレンダー作成方法

コースが複数ある場合、2つ目以降のコースの治療カレンダーを設定する際には、診断と治療の画面から実施する必要があります。

1. 診断と治療の画面から該当するコースの箇所を選択し、右クリック> 治療カレンダーをクリックします。



2. 治療カレンダーを作成します。



2.6 治療カレンダー変更方法

1. 変更したい日付を選択し、変更をクリックします。

The screenshot shows the '治療チャート' (Treatment Chart) window. On the left, there's a table for session selection with columns for ID, Field名, 説明, and 線量(シーケンス). On the right, there's a calendar grid showing dates from 02/11 to 04/21. The date 02/17 is selected. A red box highlights the '変更(C)' button in the right-hand sidebar.

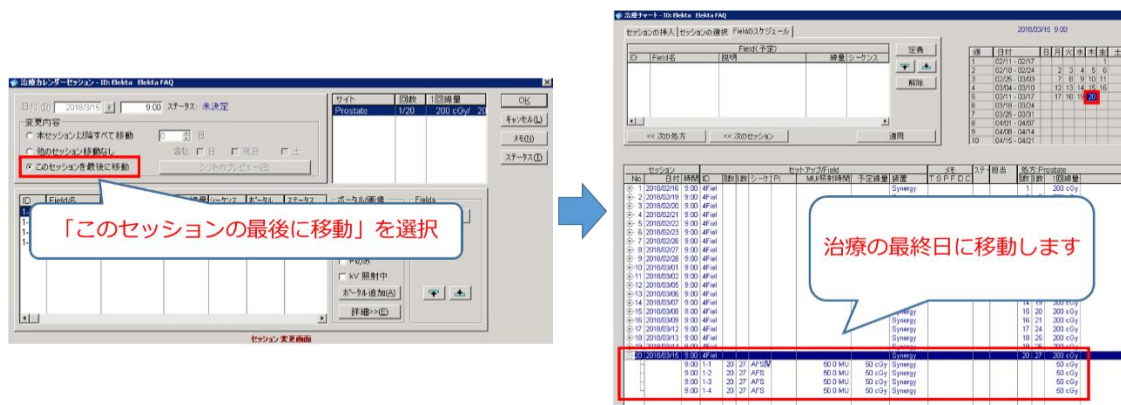
2. 特定の日付に移動したい場合は「他のセッション移動なし」をクリックし、日付を指定後「OK」をクリックします。

The left screenshot shows a dialog box titled '治療カレンダーセッション - ID: Elekta Elekta FAQ'. It has a '日付' (Date) field set to '2018/03/19'. There are three radio buttons: 'このセッションを移動' (Move this session), '他のセッションを移動' (Move other sessions), and '他のセッション移動なし' (Do not move other sessions). The '他のセッション移動なし' option is selected and highlighted with a red box and a callout bubble. The 'OK' button is also visible.

The right screenshot shows the main calendar interface with the date '03/19' selected. A red box highlights the selected date, and a callout bubble says '特定の日に移動します' (Move to a specific date).

治療最終日に移動したい場合は「このセッションの最後に移動」をクリックし、

「OK」をクリックします。

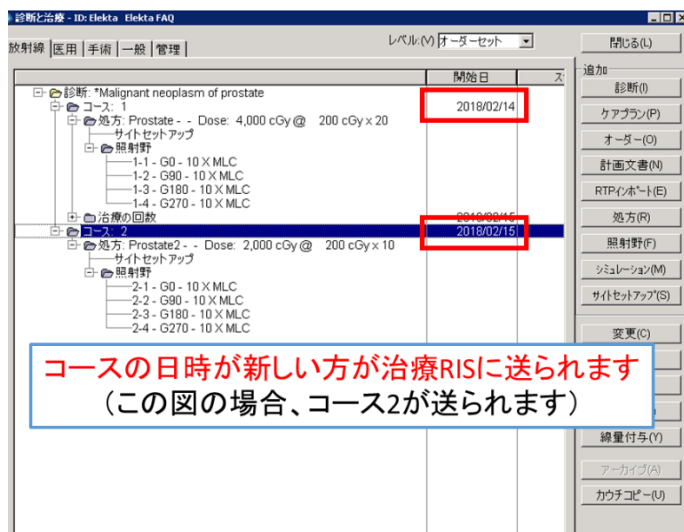


2.7 治療 RIS にプランが送れない

治療RISにプランデータが送られない場合、下の項目①、②に当てはまるかご確認ください。

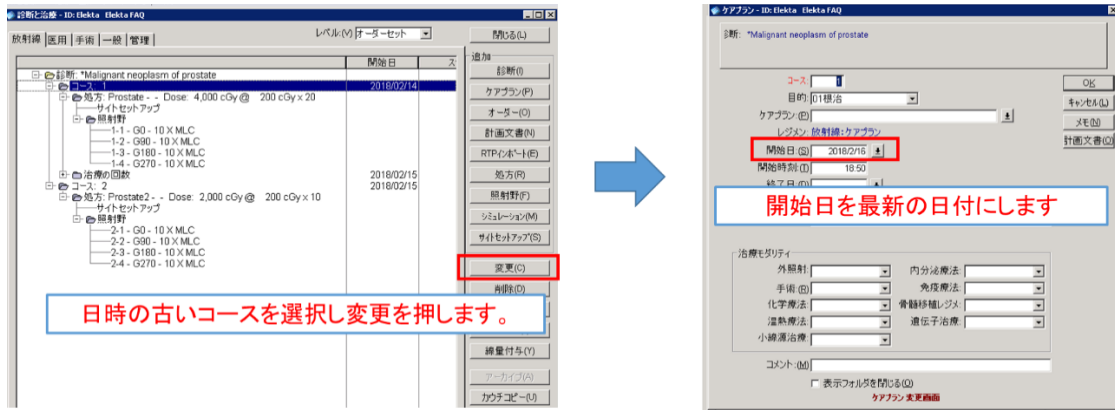
1. コースが複数ある場合

コースが複数ある場合、日時の新しいコースが治療RISに送られます。



* 古いコースを送る場合は、コースの日付を新しくする必要があります。

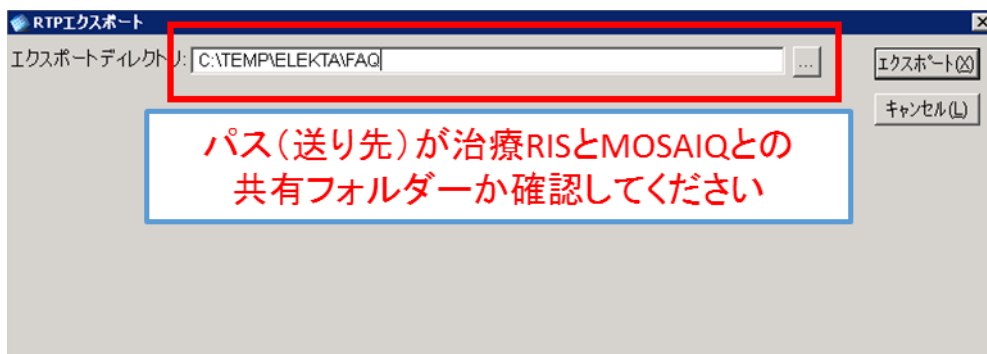
日付変更後、治療RISにプランをエクスポートします。



2. 送り先が間違っている場合

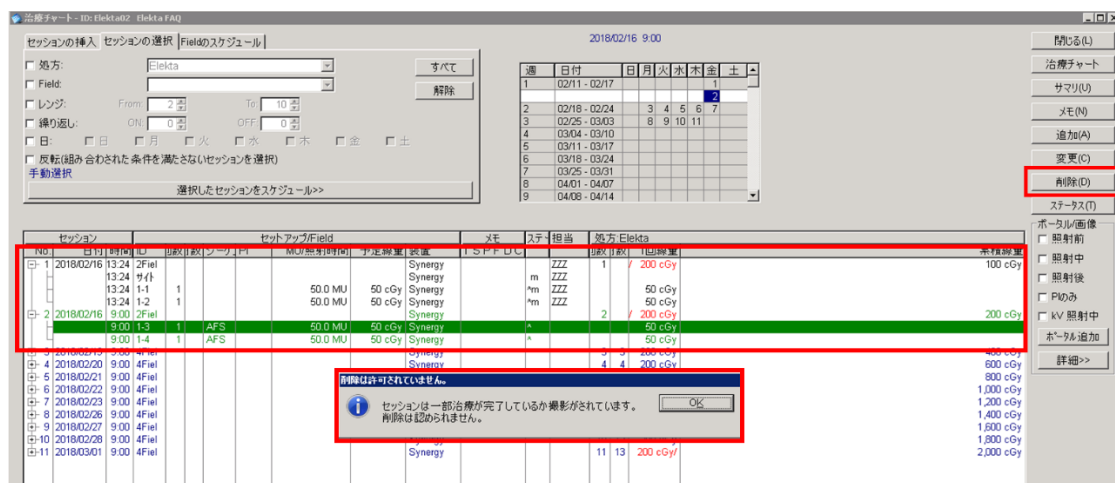
該当プランの送り先が間違っている可能性があります。

送り先が正しいか確認してください。



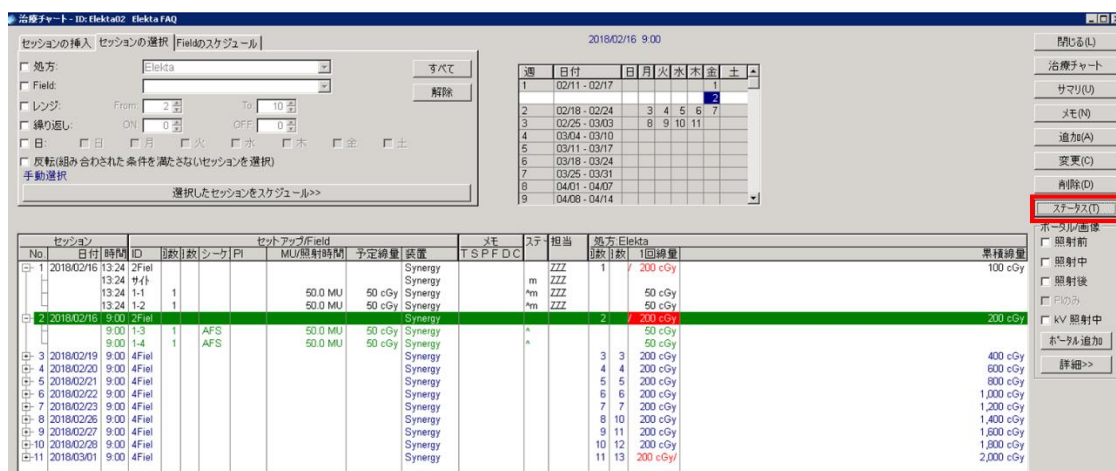
2.8 照射していないFieldの削除（治療カレンダー）

一部のFieldを照射した場合、その日の照射していないFieldを削除するには、削除ボタンをクリックしても削除できません。

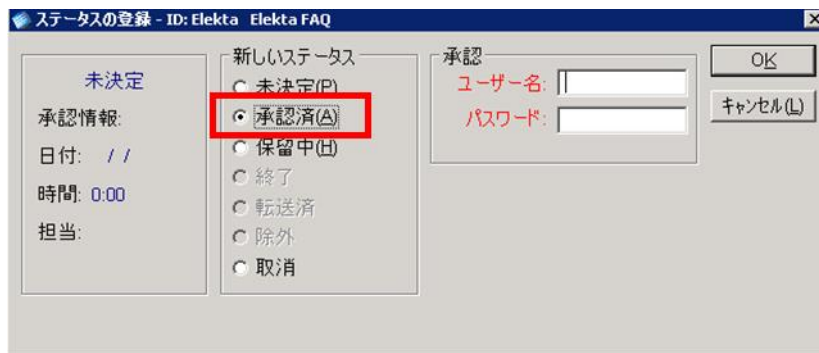


残りのFieldを削除するには以下の手順を実施してください。

1. 削除したいセッションをクリックし、ステータスをクリックします。

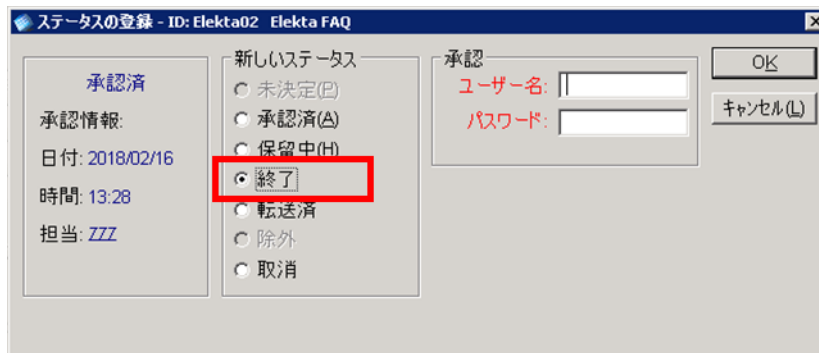


2. 「承認済」をクリックし、ユーザー名、パスワードを入力後、「OK」をクリックします。



- 再度、削除したいセッションをクリックし、ステータスをクリックします。
- 「終了」を選択し、ユーザー名、パスワードを入力後、「OK」をクリックすると

該当するFieldが削除されます。

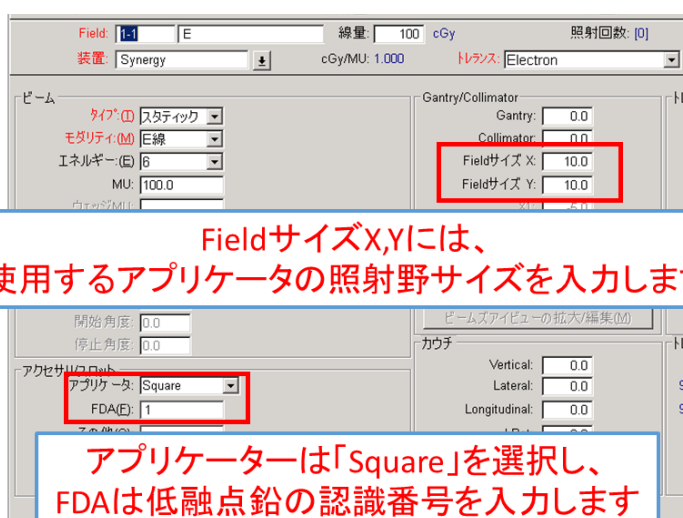


2.9 電子線 Field の作成方法

TPSから電子線のPlanを送ったとしても、Fieldサイズに適切な値が反映されません。

Fieldサイズ、アプリケーター、FDAを入力する必要があります。

- ・ 矩形のアプリケーターを用いる場合



- ・ 円形のアプリケーターを用いる場合



エンドチューブ

2.10 ガードリーフを考慮した照射野作成方法

※例：10cm×10 cm で Agility ヘッド、

ガードリーフあり(上下 MLC2 枚分かれている)の照射野作成方法を記載します。

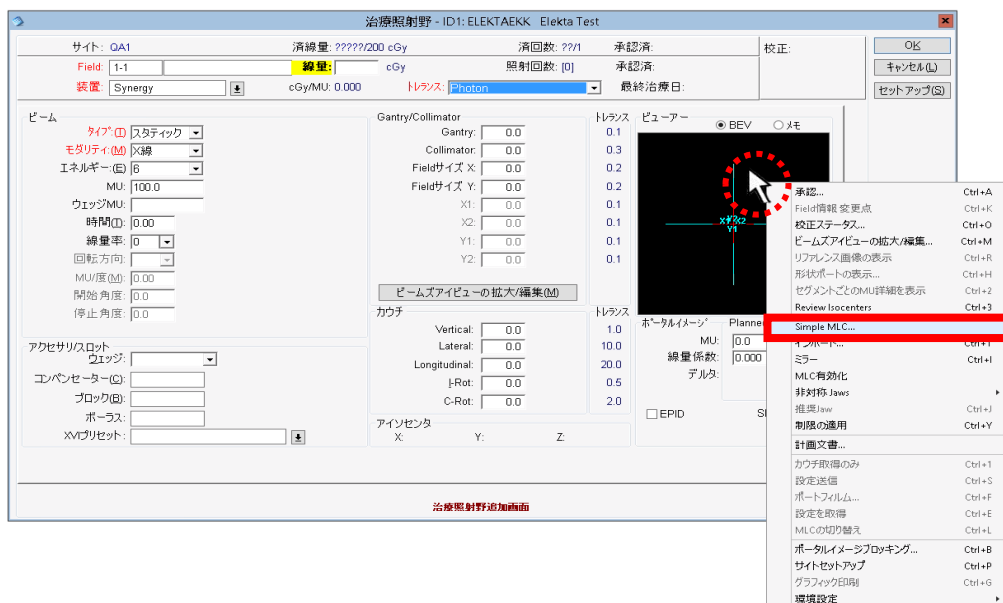
【作成方法】

1. 「診断と治療」から、診断・コース・処方を設定してください。

(詳しくはシステムトレーニングマニュアルを参照下さい。)

2. 「照射野」をクリックし Field ID、タイプ、モダリティ、エネルギー、MU など

必要な欄を入力し、右クリック > Simple MLC... をクリックします。

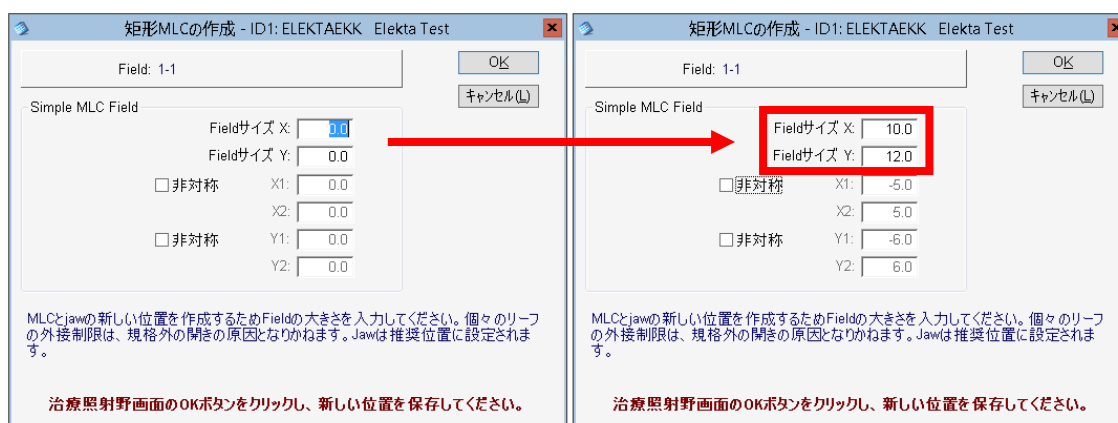


3. 矩形 MLC の作成 のウィンドウが表示されます。

Field サイズ X :10 （※単位は cm）

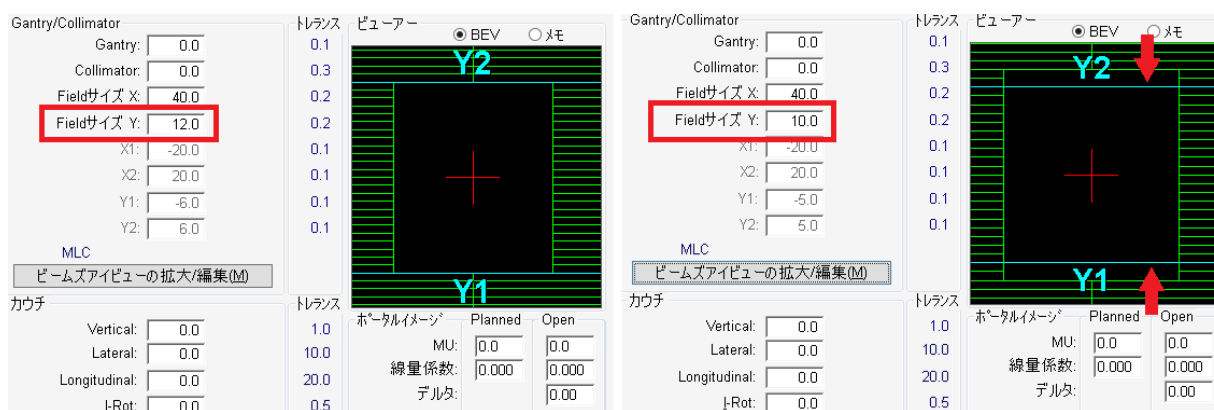
Field サイズ Y:ガードリーブ分を考慮し、2cm 足した 12 を入力します。

「OK」 をクリックします。



4. 治療照射野 のウィンドウの「Field サイズ Y」 を 10 に変更し、BEV でダイア

ラム (jaw) の位置を確認します。

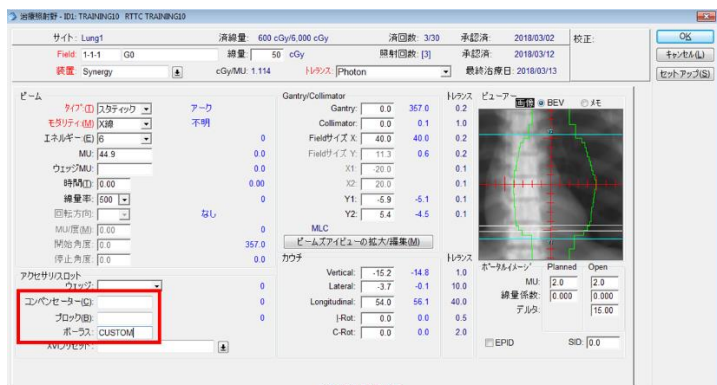


5. 治療照射野ウィンドウの「OK」 をクリックします。

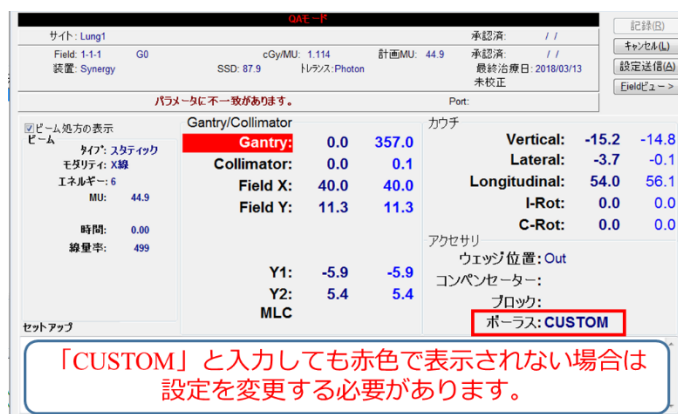
「診断と治療」に「照射野」が追加されます。

2.11 照射前のリマインダー機能（例：ボーラスを照射前に確認する）

治療照射野の「コンペンセーター」、「ブロック」、「ボーラス」に「CUSTOM」と入力すると、照射照合画面で上書きをしないと照射できません。

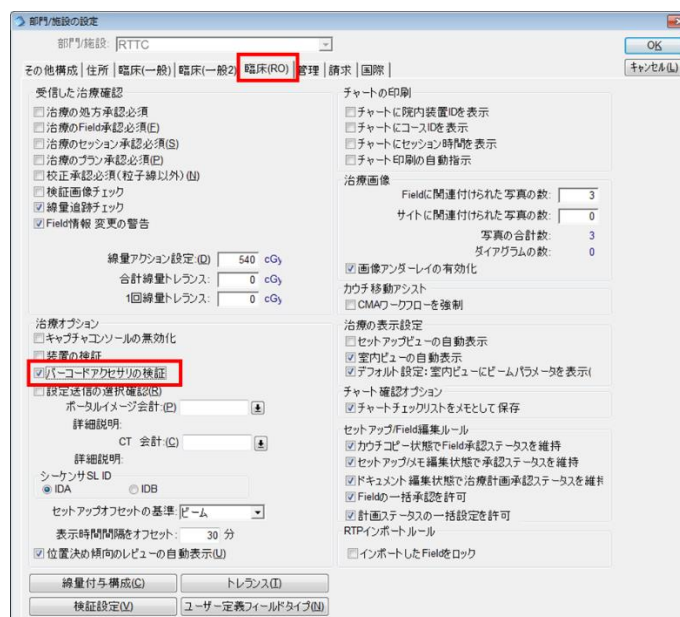


* 「CUSTOM」と入力したのにも関わらず、上書きを要求されない場合は設定を変更する必要があります。



・設定の変更方法

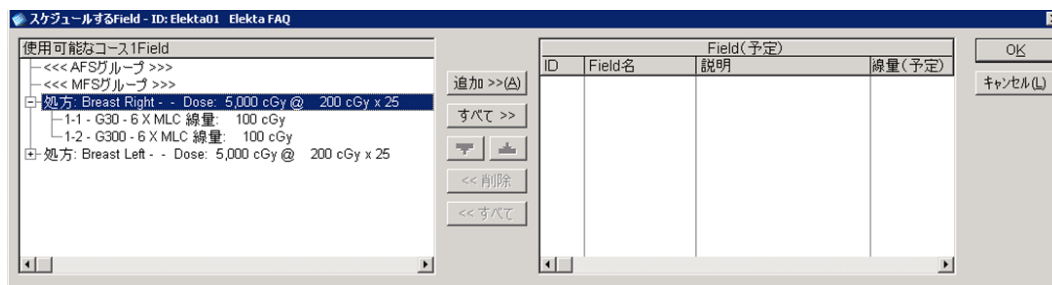
1. [ファイル]>[システムユーティリティ]>[部門/施設の設定] を選択します。
2. 臨床 (RO) のタブを選択し、バーコードアクセサリの検証にチェックをつけます。



2.12 AFS の条件 (CFS 設定が ON のご施設)

CFS設定:ONのご施設で、AFSで照射を行う際には、以下の項目①から⑧すべてに当てはまる必要があります。

※CFS設定：ONの施設とは、各Fieldをフルオート照射する設定にしてある施設のことを指します。詳しくはアプリケーション担当にご確認ください。



①Fieldのタイプが「固定」または「Step&Shoot」

②X線を使用

③コンペンセーター、ブロック、ボークスに「CUSTOM」と入力されていない

(「CUSTOM」の詳細に関しては、「2.11 照射前のリマインダー機能 (例：ボークスを照射前に確認する)」をご覧ください。)

④MLCが定義されたField



⑤すべてのFieldのカウチ座標が、最初に照射したFieldに対して1mm以内

⑥物理ウェッジを使用していない

以下は該当するご施設のみ

⑦すべてのFieldで同じ装置が登録されている

⑧すべてのFieldの補償フィルターコード、ブロックコード、ポーラスコードが同じ

⑨すべてのFieldがFFFエネルギーFieldであるか、すべて非FFFエネルギーFieldである

2.13 2D マッチング（1枚の写真のみで照合）の条件

2Dマッチング（1枚の写真のみで照合）を行うには、**ガントリー角度が0度、90度、180度、270度**での写真である必要があります。

2.14 2D-2D マッチング（2枚の写真を使用して照合）の条件

2D-2D マッチング（2枚の写真を使用して照合）を行うには、以下の項目すべてに当てはまる必要があります。赤字表記の箇所は特に注意してください。

- ① アイソセントリックローテーションの値が0度
- ② 同じプランに関連づいていること
- ③ 2枚の写真の収集角度差が30度より大きく150度未満
- ④ 2枚の写真の撮像時間差が10分以内
- ⑤ 該当する画像が「承認」「非承認」「無効」になっていない
- ⑥ 取得した画像の日時が治療照射野の編集日時より新しい
- ⑦ 取得画像のピクセルが正方形
- ⑧ 2枚の画像が同じ装置で取得した画像

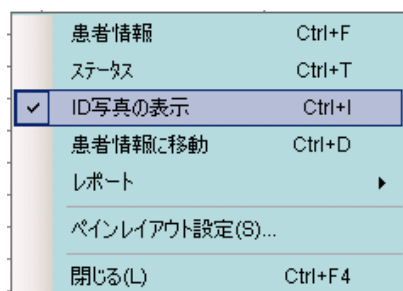
2.15 患者の ID 写真を表示、非表示

MOSAIQ で患者を開くと ID 写真を表示できます。患者写真の表示、非表示設定は下の項目 1、2 の方法で確認、切り替えができます。

1. 患者選択画面を開きます。

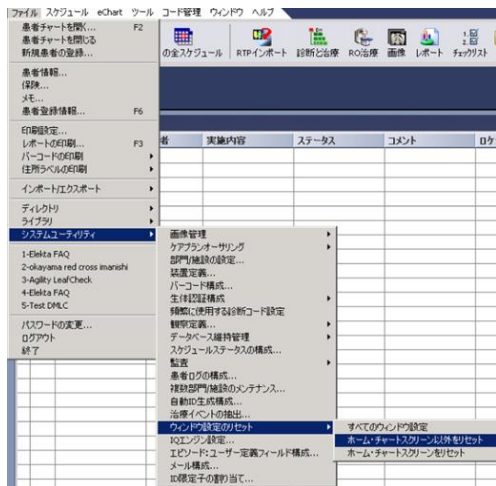


2. 右クリック> ID 写真の表示をクリックして切り替えられます。☑マークがついていれば写真が表示されます。



☑マークがついているのにも関わらず写真が表示されない場合は 3~5 を実施してください。

3. [ファイル]> [システムユーティリティ]> [ウィンドウ設定のリセット]> [ホーム・チャートスクリーン以外をリセット] をクリックします。

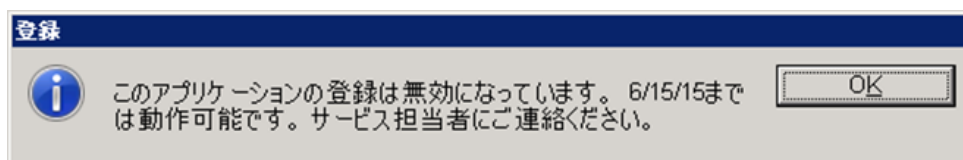


4. アプリケーションを閉じ、再度ログインを実施してください。

5. 写真が表示されるか確認してください。

上記を実施しても解決しない場合は弊社担当者にお問い合わせください。

2.16 「このアプリケーションの登録は無効になっています。・・・」が表示される



MOSAIQを立ち上げると、「このアプリケーションの登録は無効になっています。○/

○/○までは動作可能です。サービス担当者のご連絡ください。」のメッセージが表示

されることがあります。「OK」をクリックすれば問題なく使用できます。

(対応策)

ライセンスの更新作業が必要となるため、**期日までに弊社担当者にご連絡ください。**



2.17 「Energy : Mismatch text」が表示される

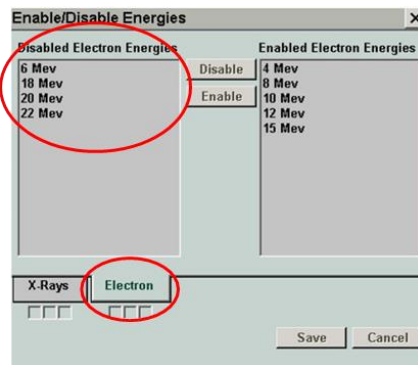
エネルギーの校正（パラメーターを修正）後は、そのエネルギーを有効化しなければ Clinicalモードで使用できません。有効化せずにMOSAIQからIntegrity（リニアック）に処方を送ると、「Energy : Mismatch text」のメッセージが表示されます。



（対応策）

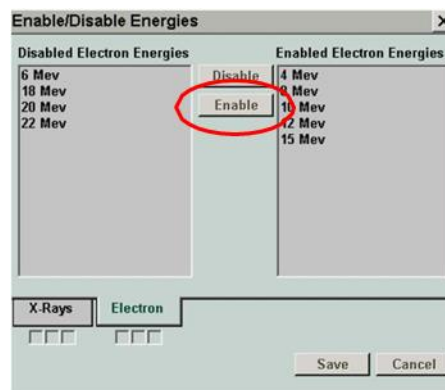
Integrityでの作業が必要となります。

1. MOSAIQのアプリケーションを終了します。
2. Integrityのサービスモードにログインします。
3. 画面最下部にある「Administrator Linac」  をクリックします。
4. 上段にある「Enable/Disable Energies」  をクリックします。
5. 表示された「Energy Selection」画面より「X-Rays タブ」若しくは「Electron タブ」いずれかをクリックし、線量校正等で設定変更したエネルギーが左側の「Disabled Electron Energies」にあることを確認します。

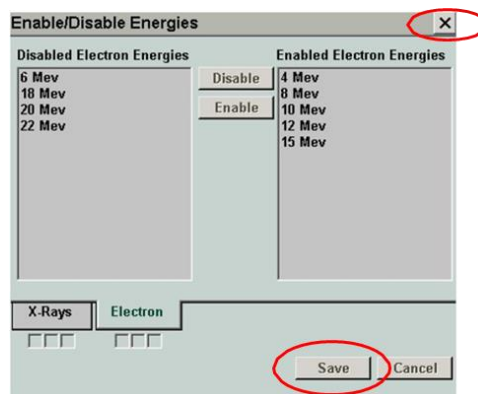


※ 上記の例では、「Electron」タブを選択していますが、「X-Rays」タブもご確認ください。

6. 「Disabled Electron Energies」に表示されているエネルギーを選択（Shift キーにて複数選択可）し「Enable」ボタンをクリックします。



7. 「Save」ボタンをクリック後、「×」ボタンをクリックし画面を閉じます。

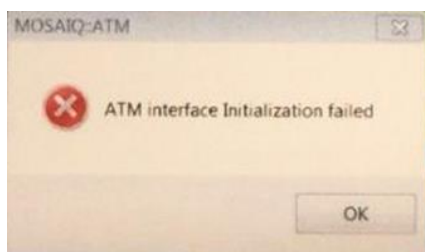


8. Clinical モードに入り、照射を再開します。

2.18 「ATM Interface Initialization failed」が表示される

Integrity（リニアック）と MOSAIQ との時刻ずれに起因する警告メッセージです。時刻がずれたまま使用すると「カウチ移動アシスト」が使用できません。

* 数分時間がずれていても、「ATM Interface Initialization failed」のメッセージが表示されなければ問題はありません。



（対応策）

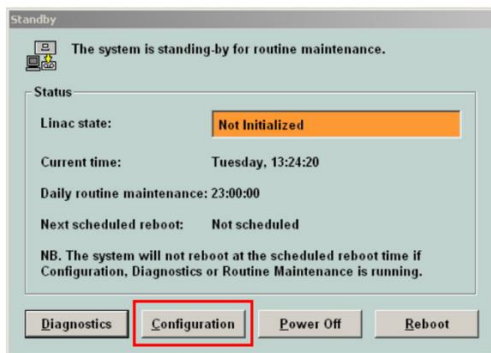
① MOSAIQ アプリケーションの再起動を行ってください。

② 再起動でも解消しない場合は、時刻設定を確認します。

・ MOSAIQ シーケンサーの時刻設定は、Windows の時刻の設定から行ってください。

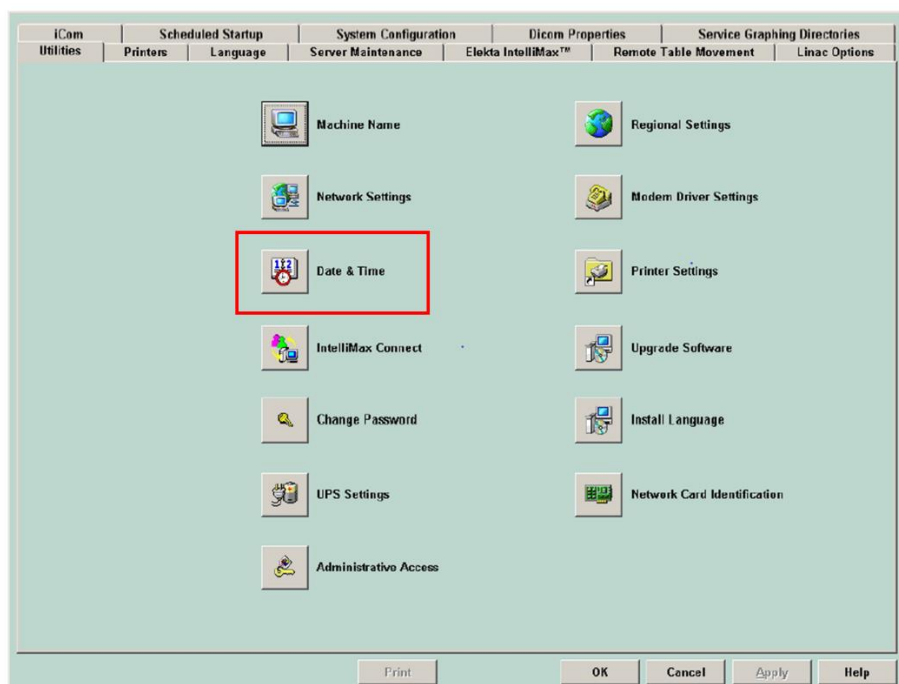
・ Integrity の時間を変更する場合は以下の作業を行ってください。

1. スタンバイ画面から「Configuration」を選択します。

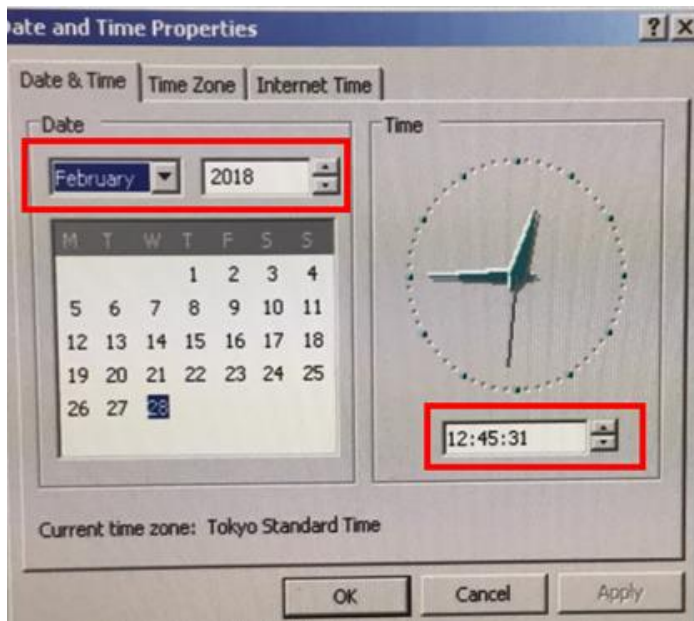


2. パスワードが要求されます。「eos」と入力してください。

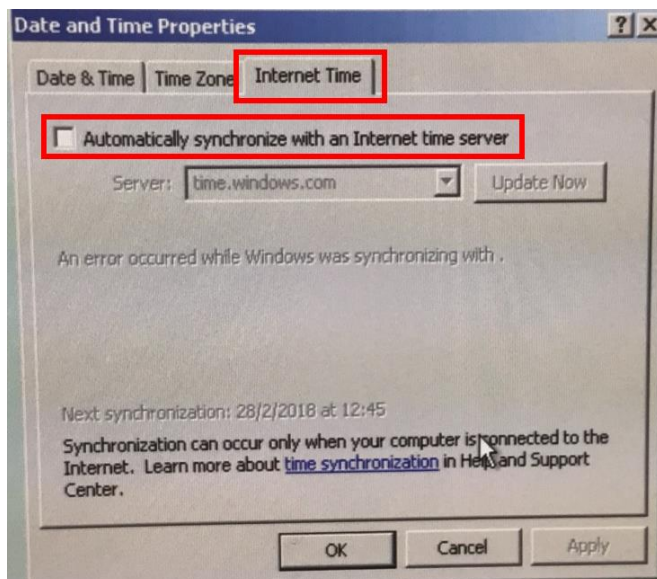
3. 「Date & Time」をクリックします。



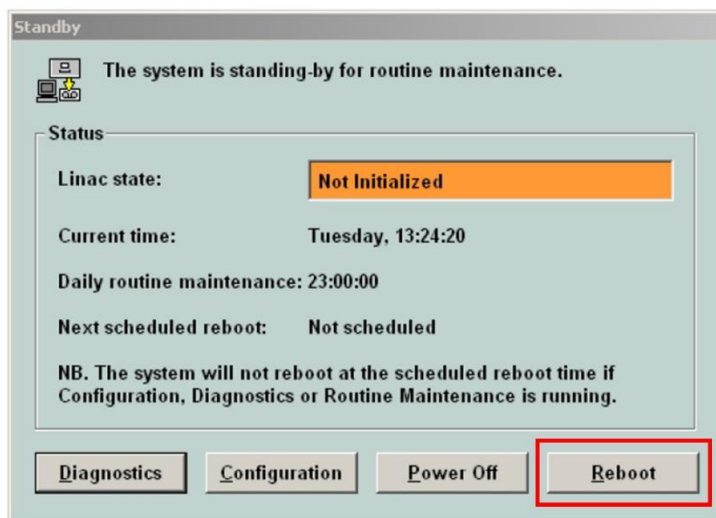
4. 正しい時間を設定します。



5. 「Internet Time」のタブを選択し、「Automatically synchronize with an Internet time server」のチェックマークを外します。（該当する場合のみ）

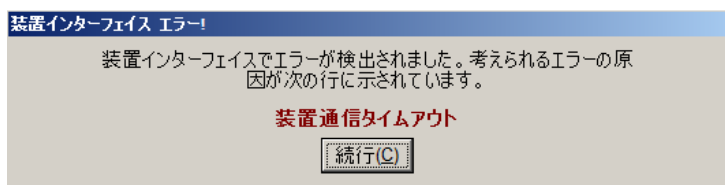


6. 4,5を実施後「Apply」をクリックし、「OK」をクリックします。
7. 時間を設定後、リニアックの再起動（reboot）を実施します。



2.19 「装置通信タイムアウト」のメッセージが表示される

リニアックと MOSAIQ との通信が切断されると、「装置通信タイムアウト」のメッセージが表示されます。



(対応策)

以下の手順を実行してください。

1. MOSAIQのアプリケーションを終了します。
2. リニアックのステータスをExitをクリックして「Closed」にします。
3. リニアックのステータスをReceive External Prescriptionをクリックして「Preparatory」にします。
4. MOSAIQのアプリケーションを立ち上げます。

2.20 ガイドライン(祝日/照射日等)の設定

《注意》

ガイドラインの設定の追加や無効は、MOSAIQ のアプリケーションを再起動した後からスケジュールや治療カレンダーを作成するときに反映されます。

すでに作成されたスケジュール・治療カレンダーには反映されません。

①ガイドラインの確認方法

1. [スケジュール] > [構成] > [ガイドライン] を選択します。
2. ガイドライン のウィンドウが表示され、現在設定されているガイドラインを

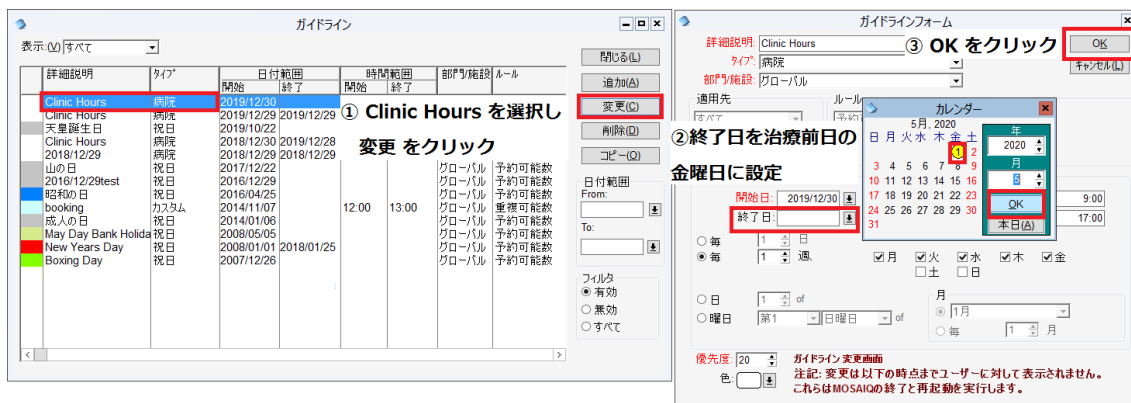
確認することができます。右下の 日付範囲 から期間を絞って確認することもできます。設定されているガイドラインをダブルクリックすると、設定内容を

確認できます。

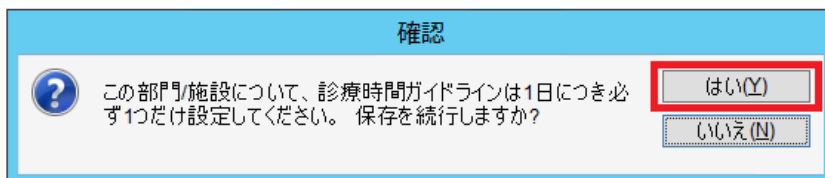
詳細説明	タイプ	日付範囲		時間範囲		部門/施設	ルール
		開始	終了	開始	終了		
Clinic Hours	病院	2018/12/30		9:00	17:00	グローバル	予約可能数
Clinic Hours	病院	2018/12/29	2018/12/29	9:00	17:00	グローバル	予約可能数
天皇誕生日	祝日	2018/10/22				グローバル	予約可能数
Clinic Hours	病院	2018/12/30	2018/12/28	9:00	17:00	グローバル	予約可能数
2018/12/29	病院	2018/12/29	2018/12/29	9:00	17:00	グローバル	予約可能数
山の日	祝日	2017/12/22				グローバル	予約可能数
2018/12/29test	祝日	2018/12/29				グローバル	予約可能数
昭和の日	祝日	2016/04/25				グローバル	予約可能数
booking	カスタム	2014/11/07		12:00	13:00	グローバル	重複可能数
成人の日	祝日	2014/01/06				グローバル	予約可能数
May Day Bank Holiday	祝日	2008/05/05				グローバル	予約可能数
New Years Day	祝日	2008/01/01	2018/01/25			グローバル	予約可能数
Boxing Day	祝日	2007/12/26				グローバル	予約可能数
Clinic Hours	病院	2006/01/01		9:00	17:00	RO	予約可能数
Clinic Hours	病院	2006/01/01	2018/12/28	9:00	17:00	MO	予約可能数

② 土日を治療日に設定する ※例：2020/5/2(土)3(日)を照射日にする場合

1. ガイドラインウィンドウから「Clinic Hours」を選択し「変更」をクリックします。
2. 終了日に治療したい土日の直前の金曜日を指定します。 ※月～金 を指定。
3. 「OK」をクリックします。



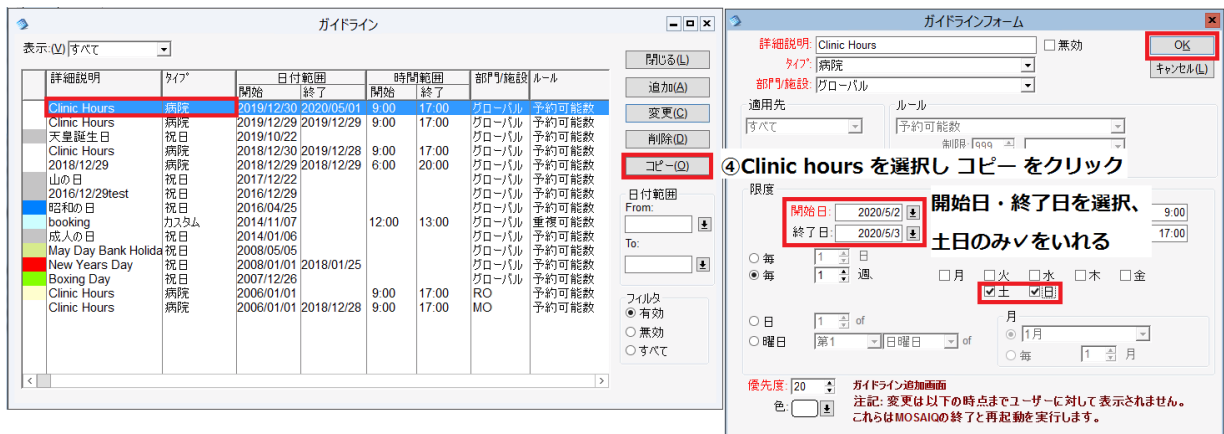
※Clinical Hours を設定する際は毎回必ず 確認 のウィンドウが出てきます。



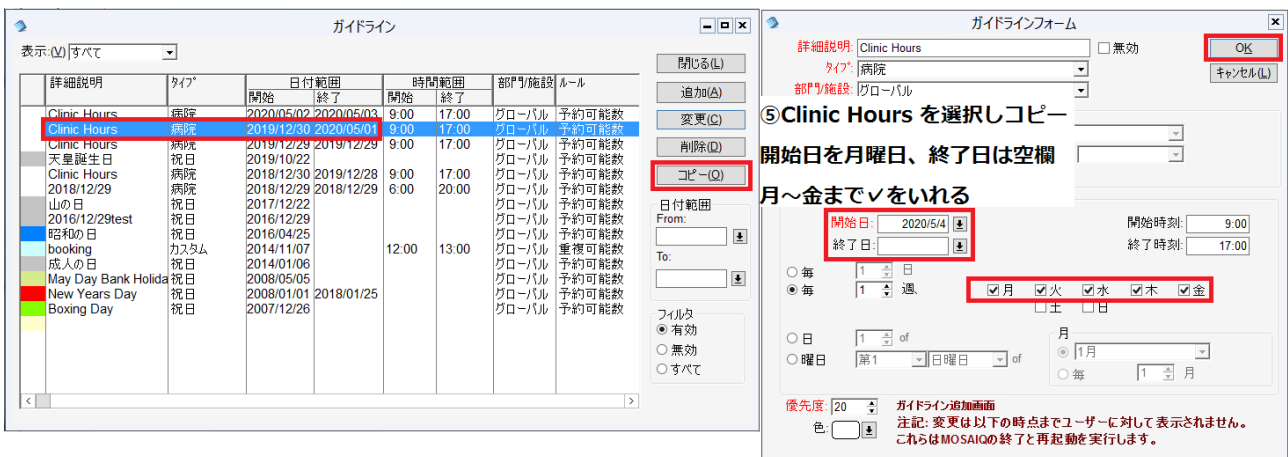
「はい」をクリックします。

4. 3. で指定した Clinical Hours を選択し「コピー」をクリック、開始日・終了日 を選択し、土日にチェックをいれ、「OK」をクリックします。

※土曜だけの治療日に設定する場合は終了日も 5/2 を指定し、土曜日 1 つだけにチェックをつけます。



5. 3.で指定した Clinical Hours を選択し「コピー」をクリック、開始日を月曜日、
終了日を空欄に設定し、「OK」をクリックします。※月~金 を指定。



6. ロケーションスケジュールで追加して、2020/5/2(土)3(日)が照射日に入っていれば
設定完了です。

《注意》

ロケーションスケジュールは上記の設定で反映されますが、

治療カレンダーを組む時は、「その他(繰返し)」で登録して下さい。

治療チャート - ID1: EKKTEST_ekk test

セッションの挿入 | セッションの選択 | Fieldのスケジュール

コース3から次の処方を選択:

開始日(D): 2020/4/23

その他: 繰返し(M)

「Fieldのスケジュール」で定義したFieldを各挿入済みセッションに割り当て

コース3にセッションを挿入

選択してスケジュール>>(E) すべてをスケジュール>>

セッション			セットアップField					予約	
No.	日付	時間	ID	回数	日数	シーケンス	PI	MU/照射時間	予約

繰返予約の設定フォーム

開始: 日(D) 2020/4/27 時間: 9:00

終了: 総治療回数(N) 25回

一定時間後

特定日別

1日あたりの回数

1回(O) 2回 3回 回: 1

パターン

日単位(A) 毎日 1日おき

週単位 毎: 1日

2週単位

月単位

その他

含む: 土曜日 日曜日 祝日

OK キャンセル(L)

③ ガイドラインを無効にする

1. ガイドラインウィンドウから無効にしたい項目を選択し「変更」をクリックします。
2. 「無効」に✓をいれる または 終了日を入力し期間を制限する

上記のどちらかを設定し、「OK」をクリックします。

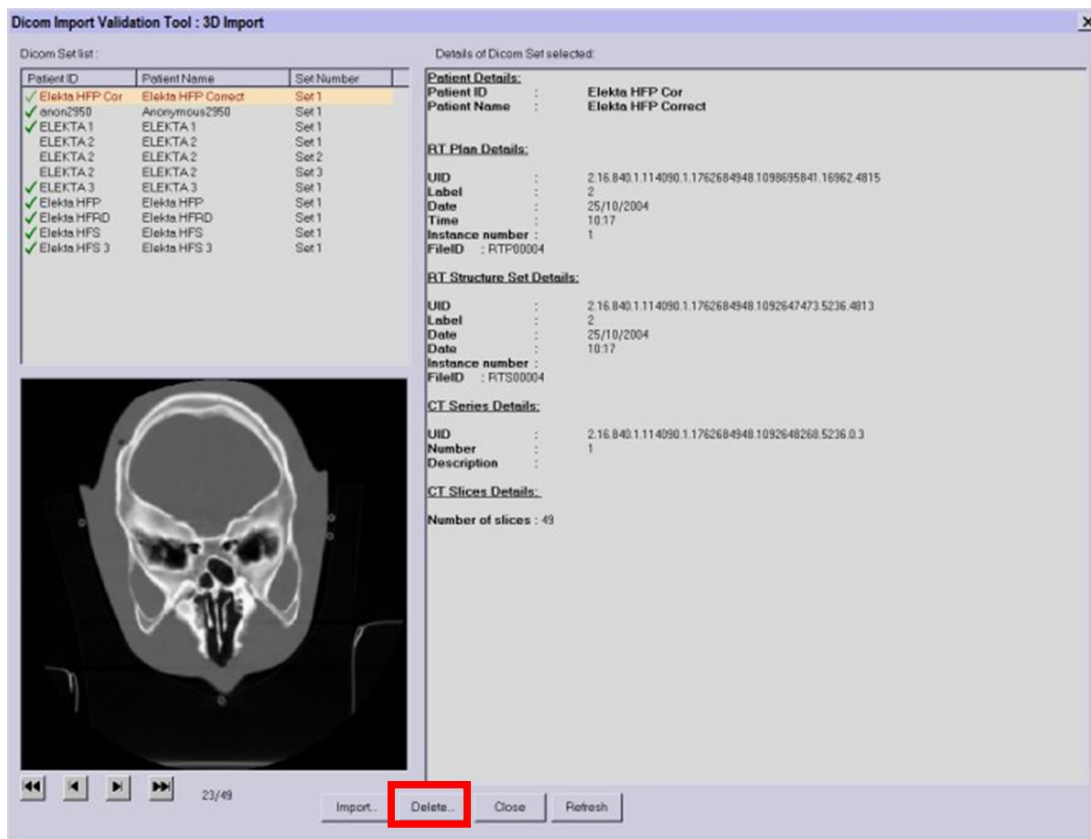
設定が反映されているかスケジュールや治療カレンダーで確認してください。

※過去に一度でも適用されたことのあるガイドラインは、不要になっても削除は行わないでください。

3 XVI

3.1 CT データが削除できない

3D Import画面からDeleteをクリックしても、削除できない場合があります。



CTデータを削除できない場合、以下の手順を行います。

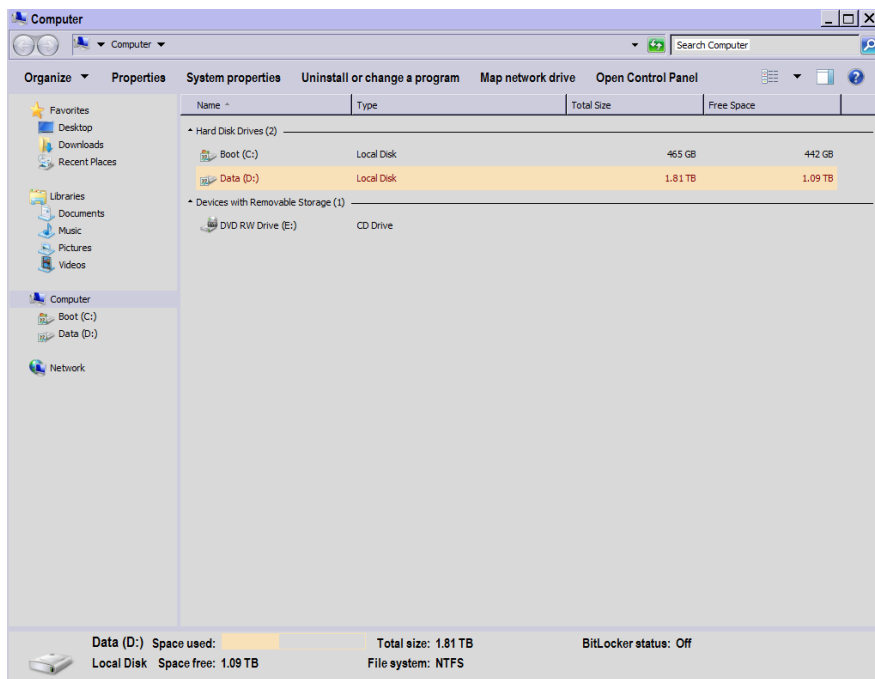
注：インポートすべきCTが3D import画面に存在する場合、先にそのCTをインポー

トしてください。以下の手順を行うと、3D import画面にあるすべてのCTデータを

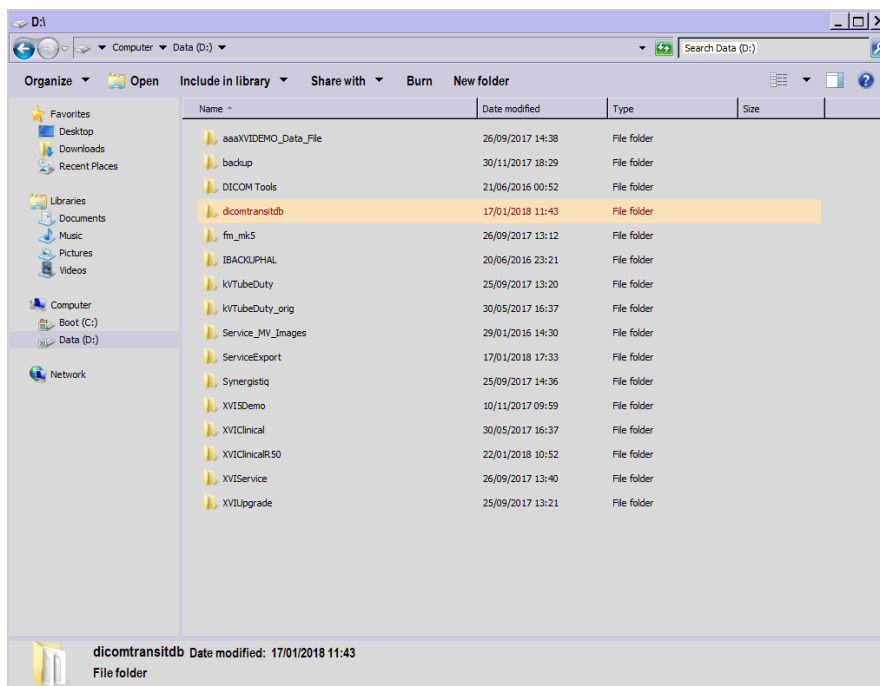
削除します。

1. XVIのアプリケーションを終了します。

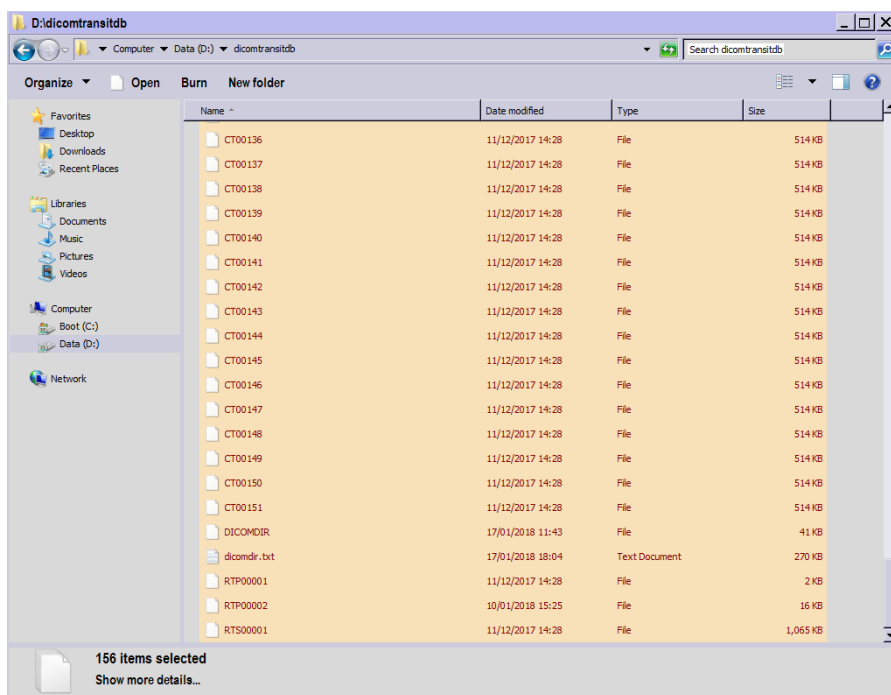
2. 「スタート」 ボタンをクリックし、「(マイ) コンピューター」を選択します。
3. 「Dドライブ」を開き、Dドライブ内のフォルダーを表示します。



4. 「Dドライブ」内の「dicomtransitdb」を選択し開きます。



5. 「dicomtransitdb」の中にあるファイルをすべて削除します。



6. XVIのアプリケーションを立ち上げ、該当するCTデータが削除できるか確認します。

3.2 同じ患者で複数の CT データをインポート

複数の放射線処方（複数のCT）をXVIに送る際には、1部位ずつ転送/インポートする必要があります。

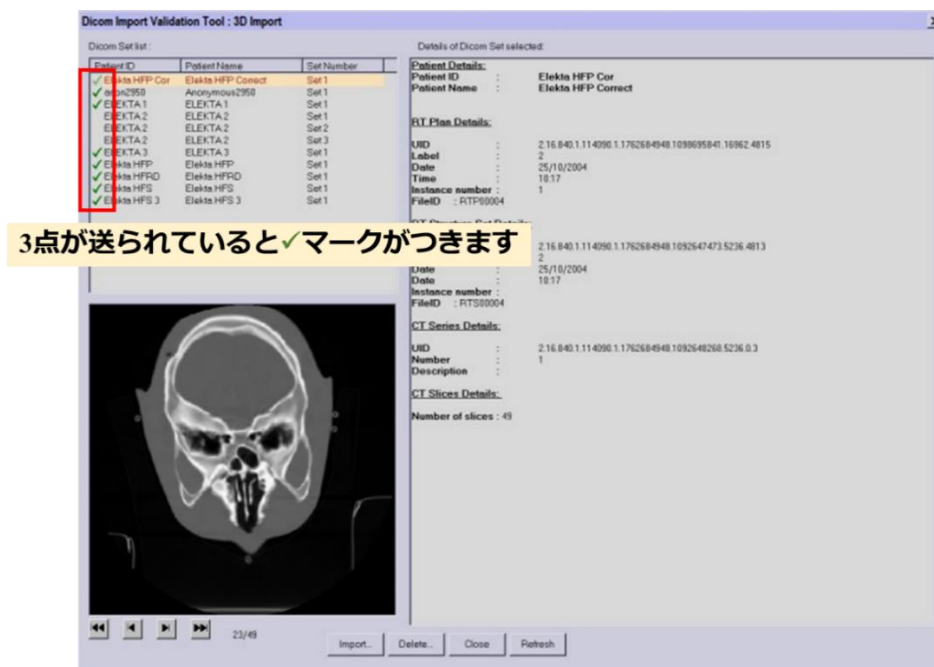
*2部位をまとめて取り込んでしまいインポートできない場合は、「4.1 CTデータを削除できない」の1から5の手順を実行した後、再度CTデータを1部位ずつXVIに送りインポートを行ってください。

3.3 CT をインポートできない

以下のことが原因として考えられます。①～⑤の内容を確認してください。

① プラン情報、CT画像、ストラクチャーセットのいずれかが送られてきていない。

TPSからCTを送る際には、**プラン情報、CT画像、ストラクチャーセットの3点が必須**です。この3点が送られているか確認してください。



② [dicomtransitdb] 内にデータがたまっている。

CTのデータが一時的に送られるフォルダーが [dicomtransitdb] になります。このフォルダーにデータがたまっているとインポートできない可能性があります。

「4.1 CTデータを削除できない」の1から5の手順を実行した後、再度CTデータをXVIに送りインポートを行ってください。

③ スライス数が多い

目安としてCTのスライス数が300枚を超えるとインポートできないことがあります。
（CTデータが3GBを超えるとインポートできません）

* 300枚以下でもインポートできない可能性があります。

注：XVIのバージョンが4.5より前のご施設は180枚程になります。（あくまで目安の値です。データのサイズにより枚数は異なります。）

④ ストラクチャーの情報が多い、複雑である場合

ストラクチャー情報が多い、もしくは複雑なものであるとインポートできない可能性があります。（CTデータの容量が3GBを超えるとインポートできません）

⑤ マルチアイソの場合

TPSで作成したプランがマルチアイソの場合だとインポートできません。

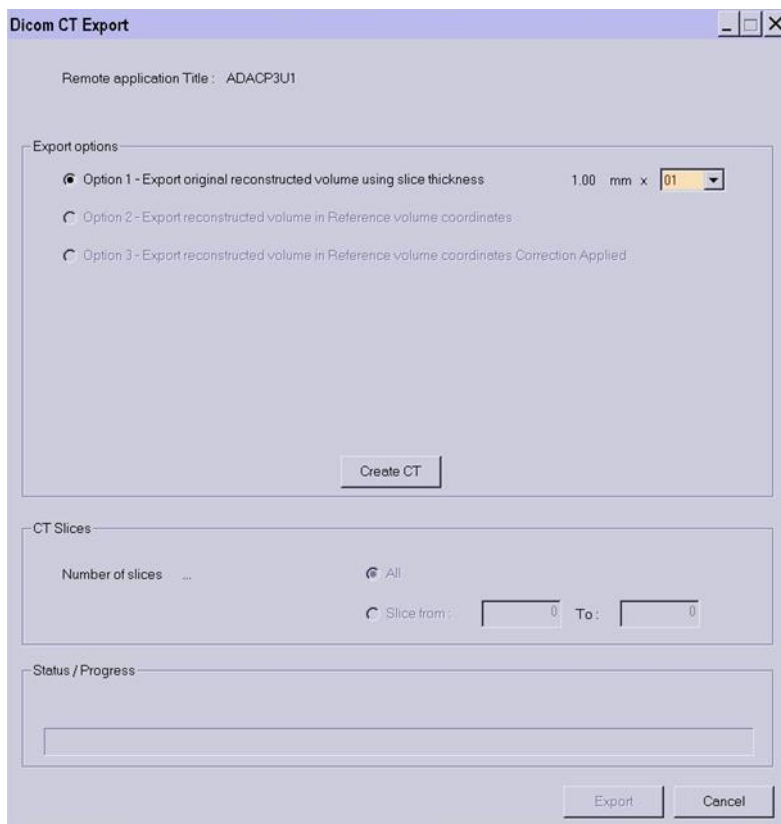
3.4 CT データを他のワークステーションに送る

CTデータを他の端末に送ることができます。

1. 該当するCTデータを選択します。
2. [Dicom] > [CT Export to] > [送り先] を選択します。

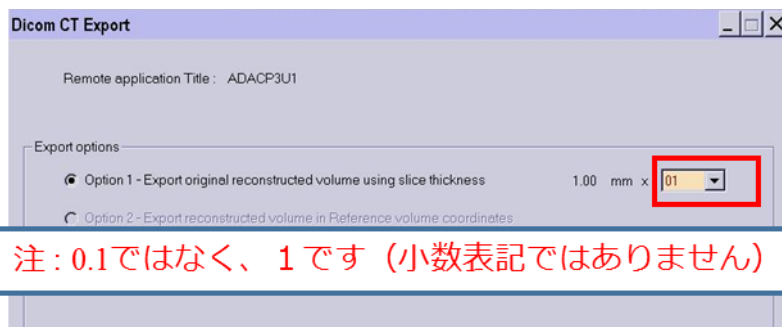


3. Optionを選択し「Create CT」後、exportを行います。



補足 : Option1、 Option2、 Option3について

Option1 : スライス厚設定して送ります。



Option2 : エクスポートしようとしているCBCT画像の座標を、リファレンス画像の座標に置き換えて送ります。

Option3 : エクスポートしようとしているCBCT画像の座標を、リファレンス画像の座標に位置補正分を加えた座標をCTデータを送ります。

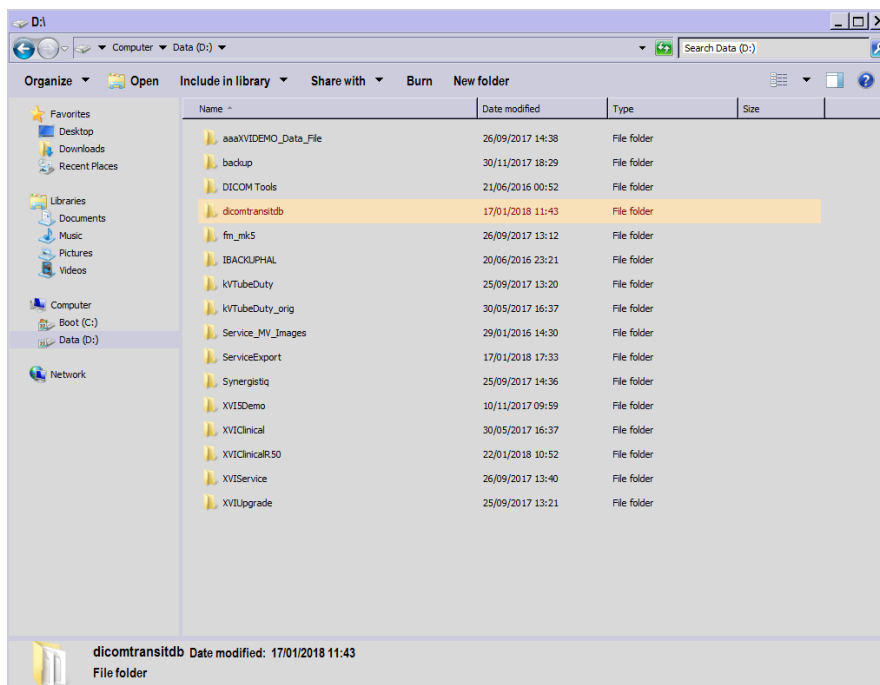
3.5 CBCT を DICOM 画像としてメディア（USB など）に保存する

該当するデータは〔dicomtransitdb〕のフォルダーに保存されます。

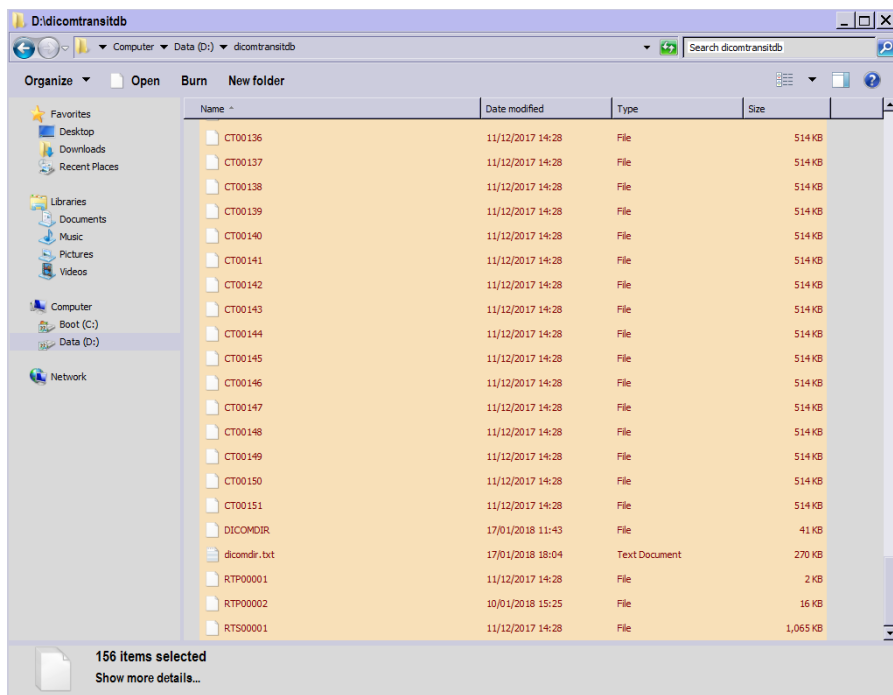
メディアに保存する際には以下の手順を実行してください。

注：インポートすべきCTが3D import画面に存在する場合には、初めにCTのインポートを実施してください。以下の手順を行うとインポートしたいCTデータも削除してしまいます。

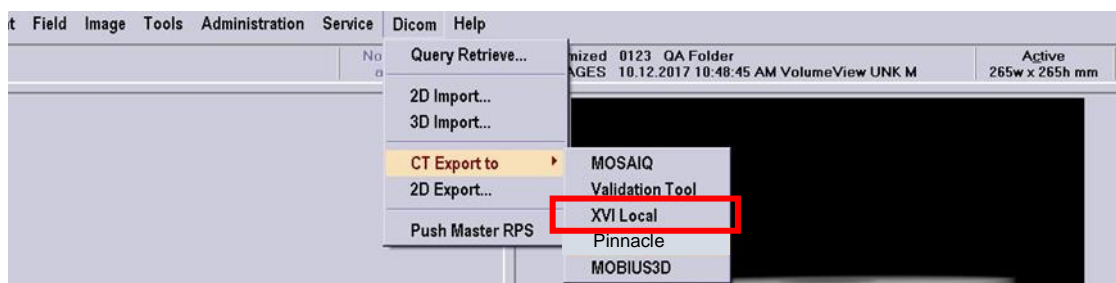
1. XVIのアプリケーションを終了します。
2. 〔スタート〕ボタンをクリックし、〔コンピューター〕>〔Dドライブ〕>〔dicomtransitdb〕を開きます。



3. 〔dicomtransitdb〕の中にあるファイルをすべて削除します。



4. XVIのアプリケーションを開きます。
5. [DICOM] > [CT Export to] > [XVI Local] を選択します。

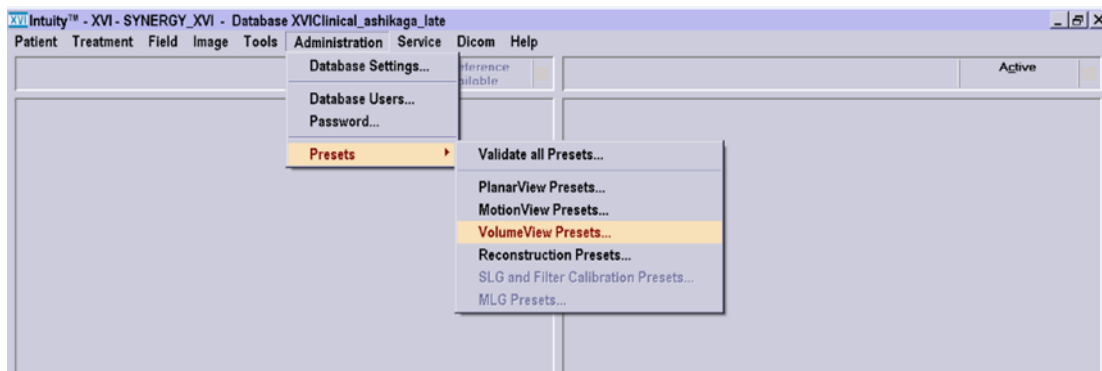


6. 3.4.3と同様の手順でExportをおこないます。
7. 出力後、XVIのアプリケーションを終了します。
8. [コンピューター] > [Dドライブ] > [dicomtransitdb] 内のデータをメディアに保存します。

3.6 Preset（撮像条件）の編集方法（CBCTの場合）

CBCTのPreset（撮像条件）を変更する場合、

〔Administration〕 > 〔Presets〕 > 〔VolumeView Presets〕 を選択します。

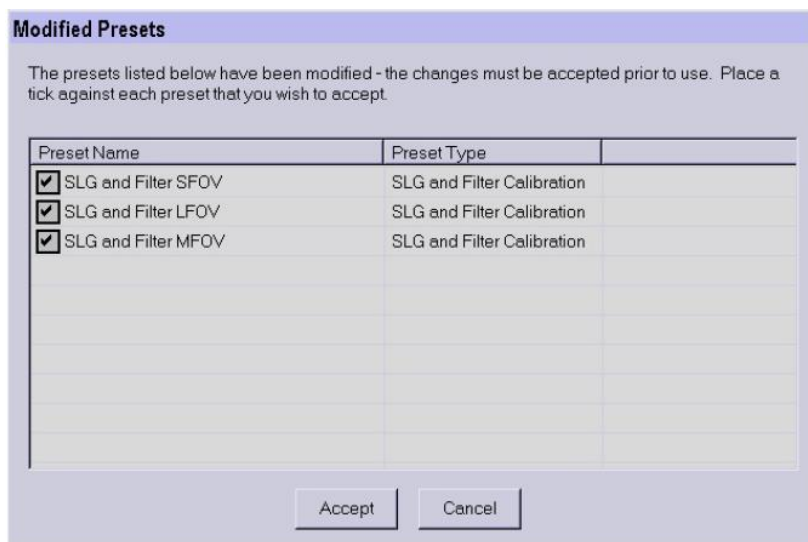


プリセット内の主要な項目の説明は3.6.2以降に記載しています。プリセット編集後は必ず以下の有効化のプロセスが必要になります。

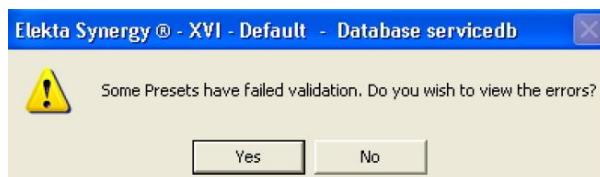
3.6.1 プリセットの有効化

編集したプリセットはValidate（有効化）しないと使用することができません。

1. 編集したプリセットをSaveしてCloseで閉じると、自動で検証チェックが走りま
す。
2. エラーが検出されなければModified Presetsウィンドウが開かれるので、有効化
したいプリセットにチェックを入れてAcceptをクリックします。



3. エラーが見つかった場合、ポップアップメッセージが出てきます。Yesをクリックすればログを確認することができます。



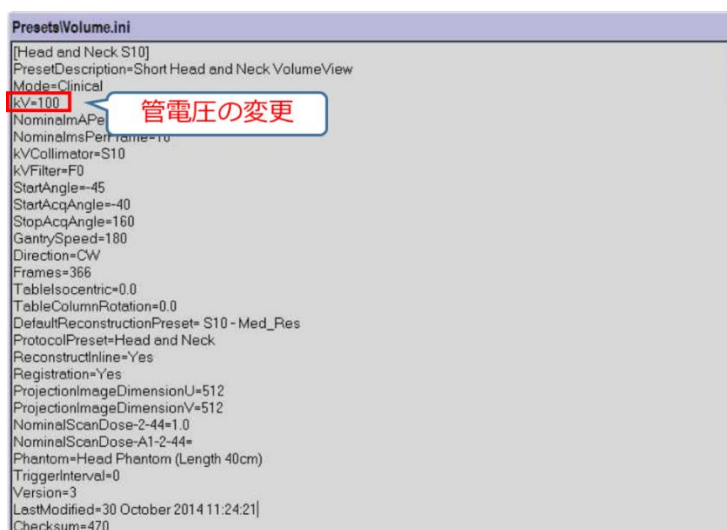
4. ログにはエラーが見つかった項目やその理由が記載されていますので、プリセット内の該当箇所を修正し、再度上記1の手順に戻ります。



3.6.2 管電圧の変更

使用できる管電圧は指定されています。(70kV-150kV)

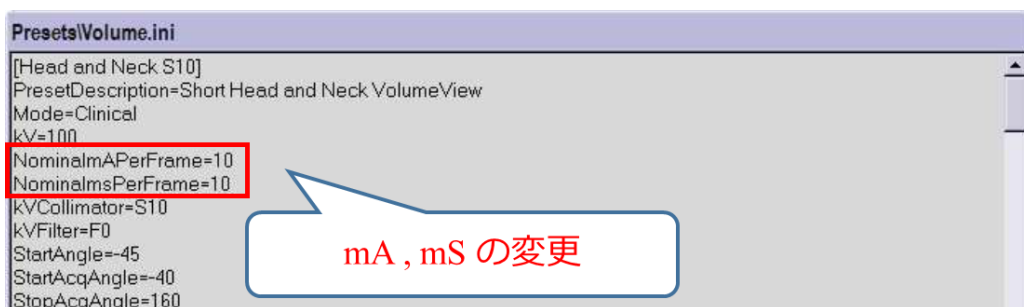
また、使用するためには管電圧・フィルタ・コリメータの組み合わせでキャリブレーションが必要になります。プリセット編集後の検証チェックで管電圧、コリメータ、フィルターにエラーが表示された場合、キャリブレーションが必要になるため担当者にお問い合わせください。



3.6.3 mA、mS の変更

mA、mSの値は指定されています。下の図を参照ください。（ユーザーマニュアルより抜粋）

単位	範囲
kV	70 ~ 150 kV
mA	ms 10 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 12 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 16 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 20 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 25 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 32 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100 ms 40 - 10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100、125、160、200、250 ms 160 - 100、125、160、200、250、320、400、500
mS	10、12、16、20、25、32、40、160



3.6.4 フレーム数の変更

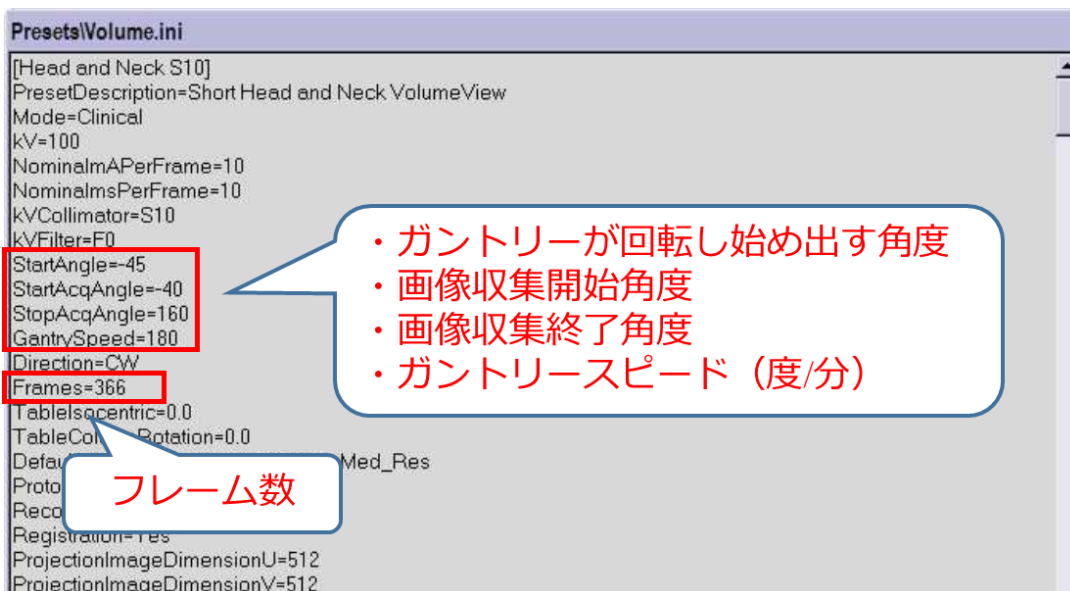
フレーム数を変更するには、ガントリースピード、ガントリー開始角度、ガントリー終了角度のパラメーターに注意して変更してください。

フレーム数は下の式にそって算出してください。（フレーム数は3～3300の整数である必要があります。小数点以下は切り捨て、四捨五入のどちらでも問題ありません。）

$$\text{フレーム数} = \frac{\text{画像収集終了角度} - \text{画像収集開始角度}}{\text{ガントリースピード}} \times \text{フレームレート}$$

* フレームレートは5.5フレーム/秒で一定です。

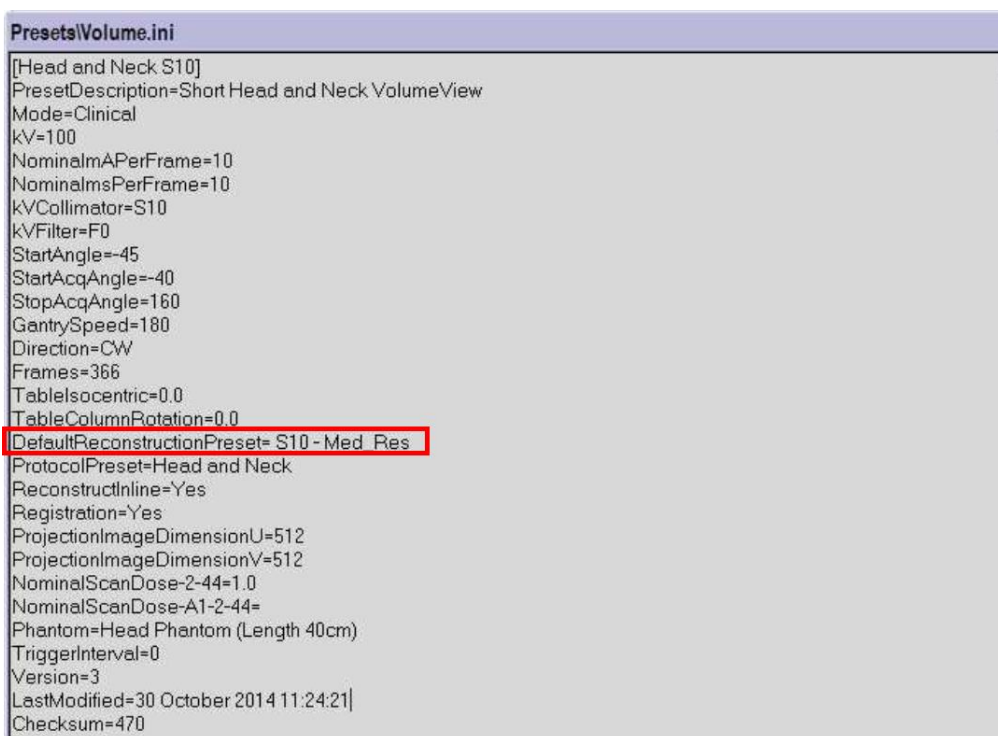
* ガントリースピードの単位は、度/秒です。



3.6.5 再構成厚の変更

CBCTのスライス厚を変更することが可能です。変更する場合は以下の手順にそって変更してください。

1. [Administration] > [Presets] > [VolumeView Presets] を選択します。
2. 該当するCTのPresetを確認します。
3. 「DefaultReconstruction」のパラメーターを確認します。



```
PresetsVolume.ini
[Head and Neck S10]
PresetDescription=Short Head and Neck VolumeView
Mode=Clinical
kV=100
NominalmAPerFrame=10
NominalmsPerFrame=10
kVCollimator=S10
kVFilter=F0
StartAngle=-45
StartAcqAngle=-40
StopAcqAngle=160
GantrySpeed=180
Direction=CW
Frames=366
TableIsocentric=0.0
TableColumnRotation=0.0
DefaultReconstructionPreset= S10 - Med Res
ProtocolPreset=Head and Neck
ReconstructInline=Yes
Registration=Yes
ProjectionImageDimensionU=512
ProjectionImageDimensionV=512
NominalScanDose-2-44=1.0
NominalScanDose-A1-2-44=
Phantom=Head Phantom (Length 40cm)
TriggerInterval=0
Version=3
LastModified=30 October 2014 11:24:21|
Checksum=470
```

4. [Administration] > [Presets] > [Reconstruction Presets] を選択します。
5. 3で確認したパラメーターと同じ名前のPresetを確認します。
6. 「ReconstructionVoxelSize」の値を変更します。

(0.1～10.0の範囲で小数点が必要。)

```
Presets\Reconstruction.ini
ScatterCorrection=Uniform
NumberOfScatterCorrectionParameters=1
ScatterCorrectionParameter1=0.24
ReconstructionDataType=short
PreFilter=None
ProjectionDownSizeFactor=2
Version=3
LastModified=18 Sep 2011 1:07:58
Checksum=37274
[S10 - Med. Res]
PresetDescription=S10 Medium Reso
ReconstructionVoxelSize=1.0
ReconstructionDimensionX=270
ReconstructionDimensionY=128
ReconstructionDimensionZ=270
ReconstructionOffsetX=0
ReconstructionOffsetY=0
ReconstructionOffsetZ=0
ReconstructionFilter=Wiener
NumberOfReconstructionFilterParameters=2
ReconstructionFilterParameter1=.05
ReconstructionFilterParameter2=.05
```

3.6.6 画質(空間分解能)を上げる（下げて再構成の時間を減らす）

画質を上げると再構成にかかる時間が遅くなってしまいます。

画質を上げる（下げて再構成の時間を減らす）場合、以下の手順で変更してください。

1. [Administration] > [Presets] > [VolumeView Presets] を選択します。
2. 該当するCTのPresetを確認します。
3. 「DefaultReconstruction」のパラメーターを確認します。

```
Presets\Volume.ini
[Head and Neck S10]
PresetDescription=Short Head and Neck VolumeView
Mode=Clinical
kV=100
NominalmAsPerFrame=10
NominalmsPerFrame=10
kVCollimator=S10
kVFilter=F0
StartAngle=-45
StartAcqAngle=-40
StopAcqAngle=160
GantrySpeed=180
Direction=CW
Frames=366
TableIsocentric=0.0
TableColumRotation=0.0
DefaultReconstructionPreset=S10 - Med. Res
ProtocolPreset=Head and Neck
ReconstructInLine=Yes
Registration=Yes
ProjectionImageDimensionL=512
```

4. [Administration] > [Presets] > [Reconstruction Presets] を選択します。
5. 3で確認したパラメーターと同じ名前のPresetを確認します。
6. 「ProjectionDownSizeFactor」の値を変更します。

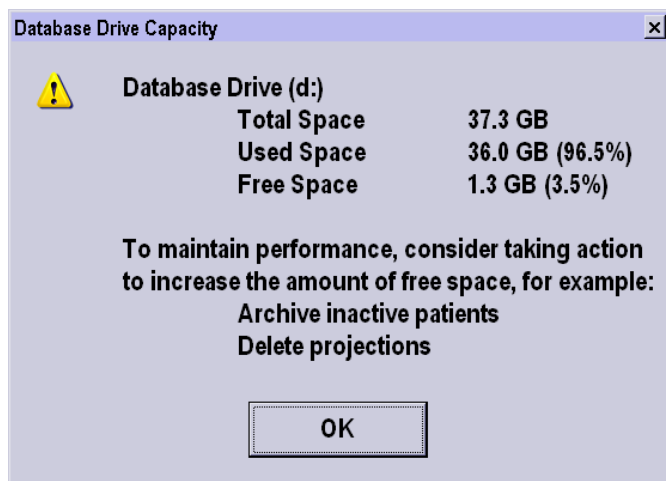
有効な値は1,2,4,8です。値が小さいほど画質が良くなりますが、再構成の時間は長くなります。



3.7 画像データのアーカイブ/リトリーブ

ハードディスク内のデータベースの空き容量が 25%未満の場合、XVI へのログイン時、

下記ダイアログボックスが表示されます。



その場合に画像データをテープにアーカイブして空き容量を増やすことができます。

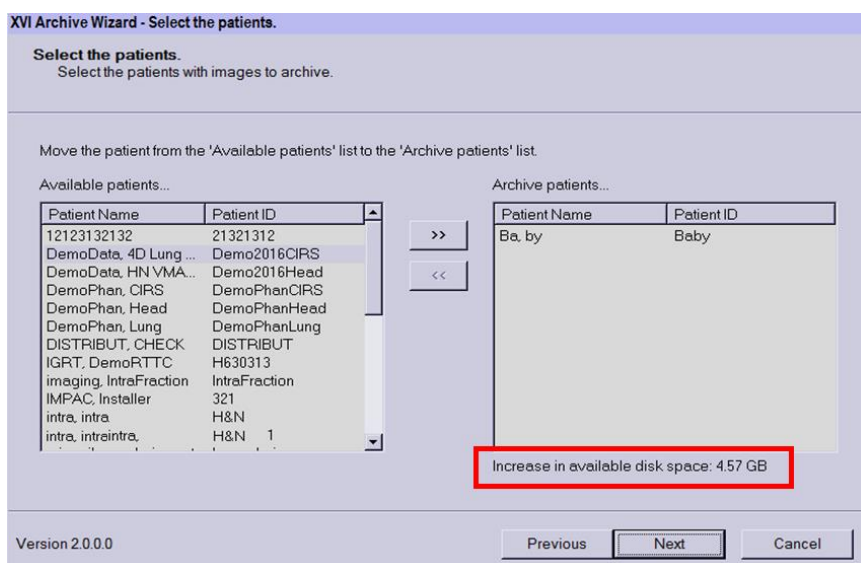
(XVI のバージョンが 5.0.3 以上のご施設は NAS やネットワークロケーションに保存
します)

3.7.1 アーカイブに費やす時間

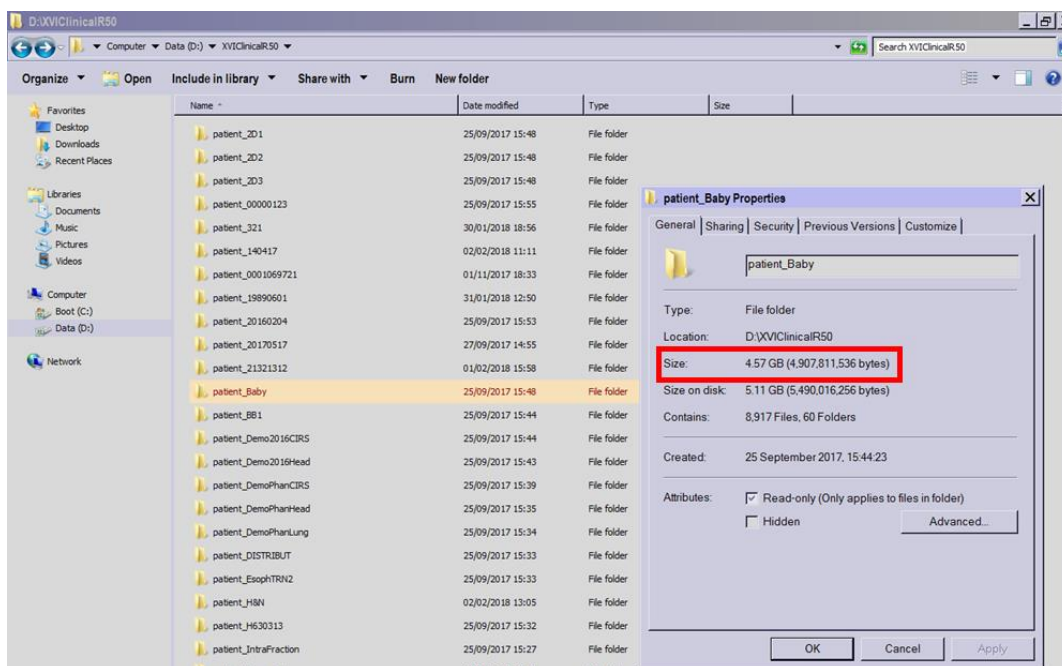
テープを使用した場合、4GBで18分程度アーカイブの時間がかかります。多くの患者データをアーカイブする場合、丸一日（24時間）程度かかる可能性がありますので、週末の治療終了後にアーカイブを実施することを推奨します。

データの容量の確認は以下の①または②の方法で確認できます。

- ① アーカイブのウィザード画面で確認できます。



- ② Dドライブ > XVIClinicalR5.0 > 該当する患者を選択後、右クリック > Property (プロパティ) で確認できます。(ご施設によってはデータの保管場所が異なる場合がございます。該当するファイルがない場合は弊社担当者にお問い合わせください。)



3.7.2 患者データのステータス

アーカイブ可能な患者は、XVI データベース上でアクティブな患者のみです。

アーカイブ前にアクティブ/インアクティブ（表示/非表示）をご確認ください。

アーカイブすると、該当患者内の画像データのみ移動し、患者フォルダーはXVIデータベース上に残ります。その際、患者ステータスもインアクティブに変わります。

また、リトリブすると、その画像データはテープから消え、XVIデータベース上の患者ステータスもアクティブに切り替わります。

※XVI 上で間違えて患者を消去すると、リトリブ自体が不可になりますので、ご注意ください。

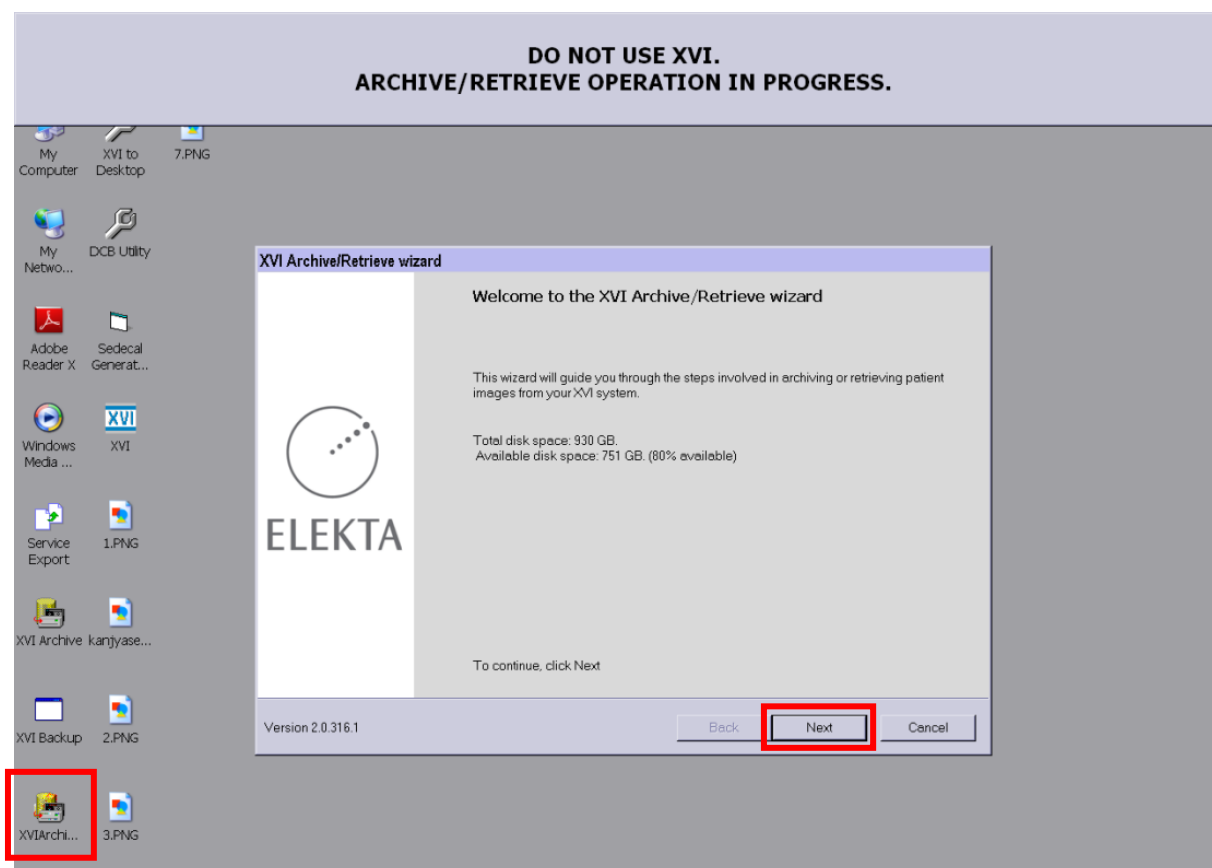
3.7.3 テープ容量

1 テープあたりの容量は約800GBです。また、テープへのアーカイブは**上書き**となりますのでご注意ください。

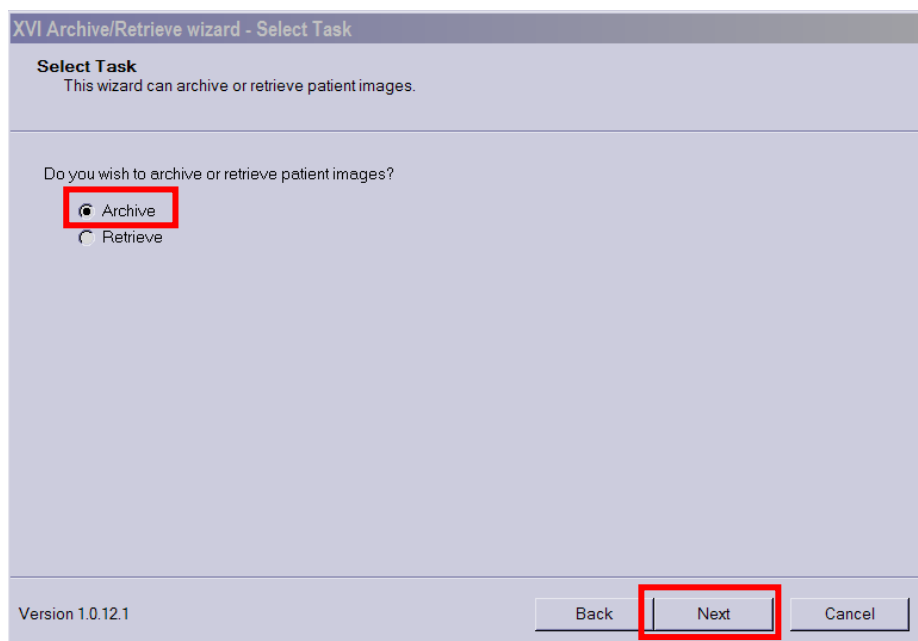
アーカイブは複数一括**可能**ですが、リトリブは1患者ずつで複数一括**不可**です。

3.7.4 アーカイブ方法

1. XVI デスクトップ上の "XVI Archive/Retrieve wizard" を開き、"Next" をクリックします。



2. “Select Task” ダイアログボックスで “Archive” を選択後、“Next” をクリックします。



3. “Authorization” ダイアログボックスが表示されるので、Clinical データベースにログインするときの User ID と Password を入力し、“Next” をクリックします。
- (事前に作成しておく必要があります。)

XVI Archive wizard - Authorisation

Authorisation
Only authorised users may archive patient images.

Please enter a user id and password.

User ID

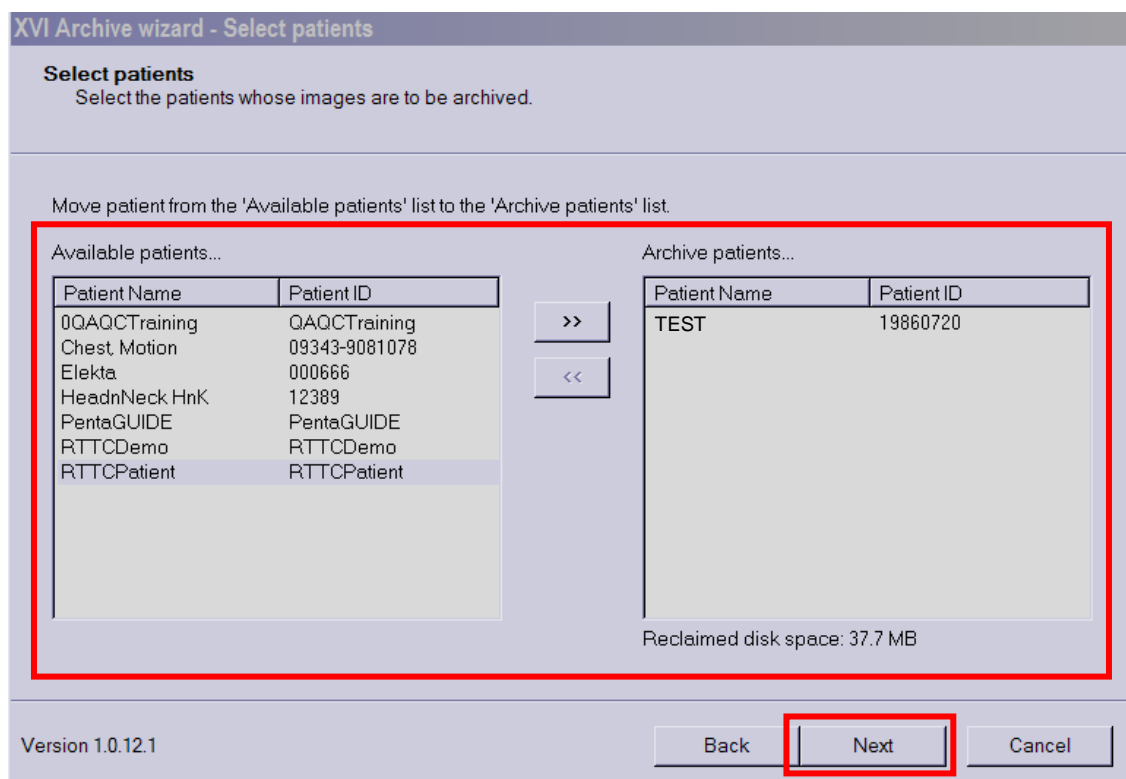
Password

Version 1.0.12.1

Back Next Cancel

4. “Select Patient” ダイアログボックスが表示されます。
5. 左側 “Available Patients” リストに、現在 XVI データベースに存在するアーカイブ可能な Patient が表示されます。

※アーカイブ可能なのは、XVI データベース上でアクティブな患者だけです。
6. アーカイブしたい患者を選択（複数可）、矢印ボタン **>>** をクリックして右側 “Archive Patients” リストに移動させ、“Next” をクリックします。




7. “Tape Label” ダイアログボックスが表示されるので、Label 名を入力して Next をクリックします。

XVI Archive wizard - Tape Label

Tape Label
Enter a label to identify the tape.

Enter a label to identify the tape. This label will be stored in the patient(s) record.

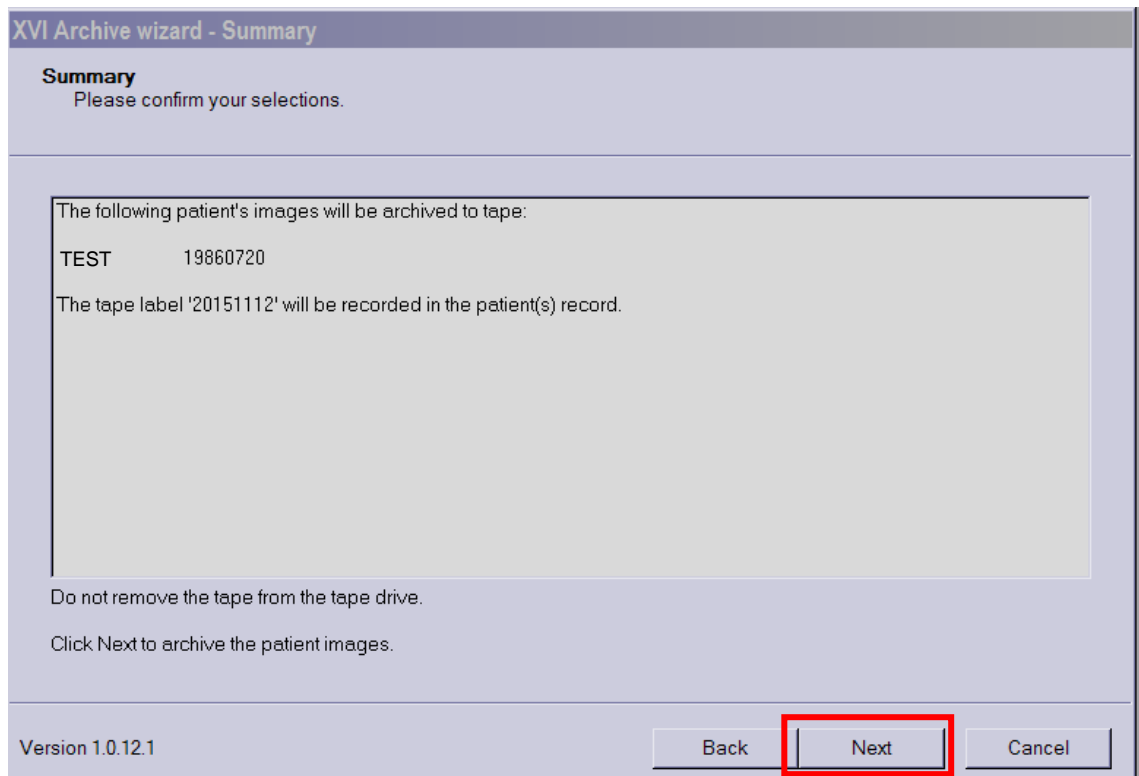
20151112 (max 20 chars allowed)

 Archiving will overwrite the tape contents.
Please insert a new tape into the tape drive.

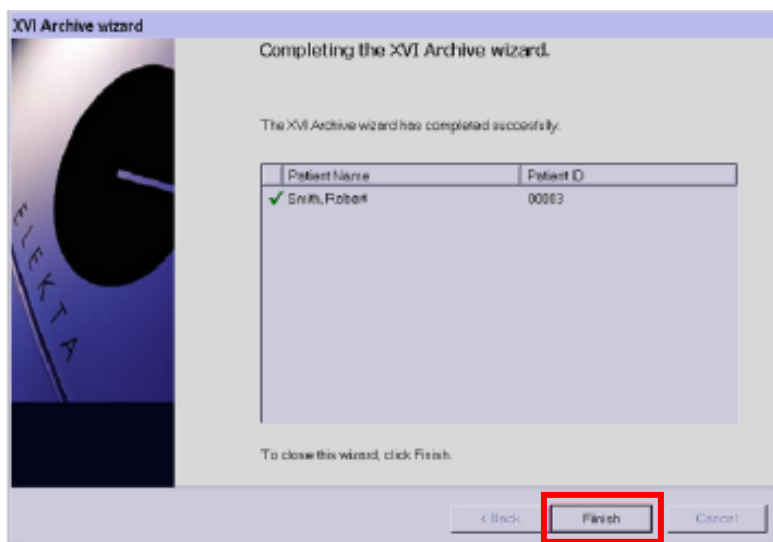
Version 1.0.12.1

Back Next Cancel

8. “Summary” ダイアログボックスが表示されます。“Next” をクリックすると、アーカイブが開始されます。



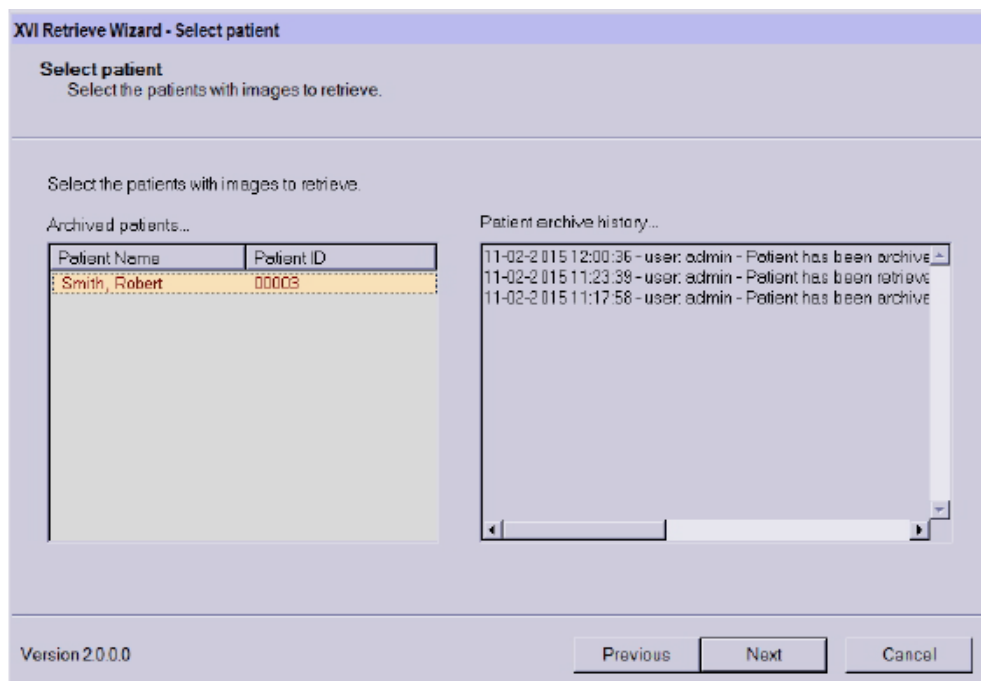
9. アーカイブが完了すると、“Archiving” ダイアログボックスで “Next” ボタンがクリックできるようになります。
10. “Next” をクリックすると、“Completing the XVI Archive Wizard”ダイアログボックスが表示されます。
11. “Finish” をクリックしてアーカイブを終了します。



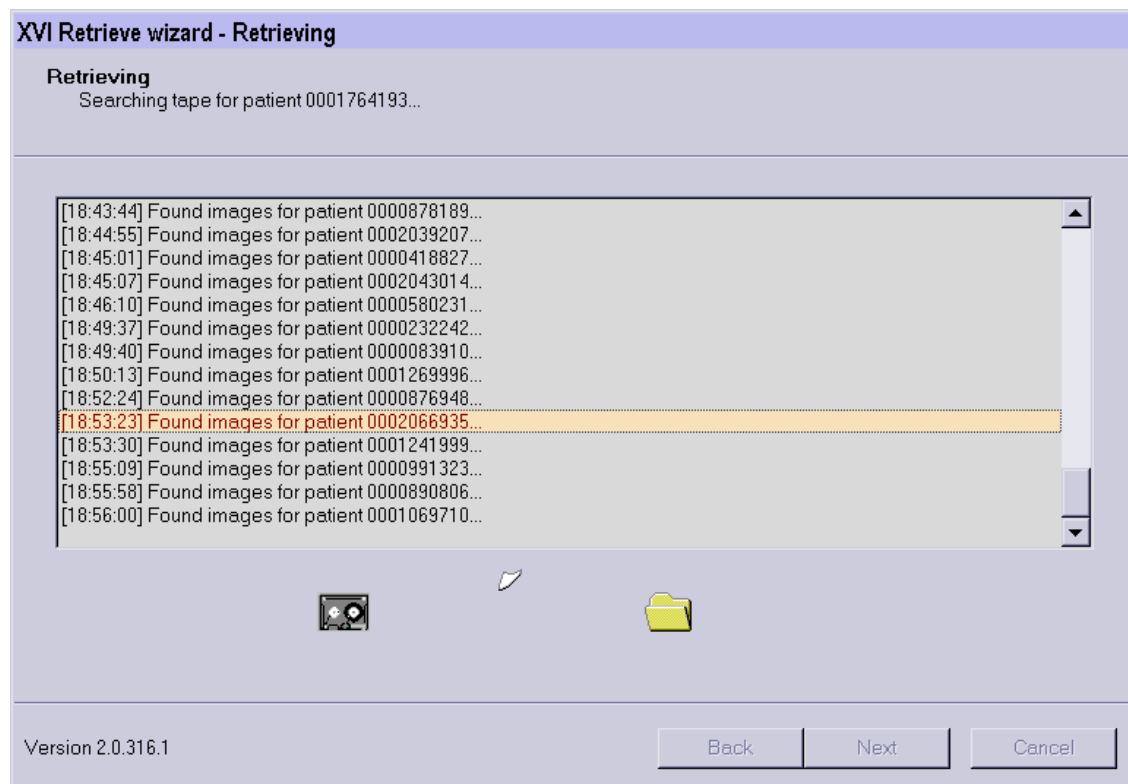
3.7.5 リトリブ方法

1. XVI デスクトップ上の "XVI Archive/Retrieve wizard" を開き、"Next" をクリックします。
2. "Select Task" ダイアログボックスで "Retrieve" を選択後、"Next" をクリックします。
3. "Authorization" ダイアログボックスが表示されるので、XVI のユーザー ID とパスワードを入力し、"Next" をクリックします。
4. "Select Patient" ダイアログボックスが表示されるので、リトリブしたい患者をハイライトし "Next" をクリックします。

※一度にリトリブ可能なのは 1 患者のみです。

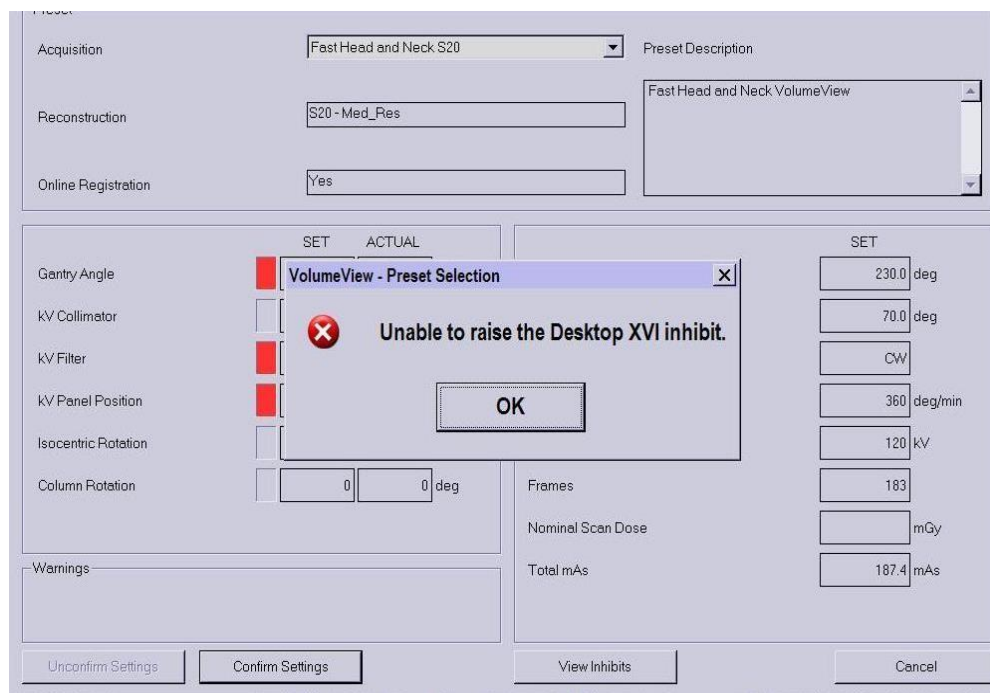


5. “Select the Location” ダイアログボックスが表示されるので、該当する Tape Label 名をクリックし “Next” をクリックします。
6. “Retrieving” ダイアログボックスが表示され、該当患者の検索が開始します。



7. 検索終了後、リトリーブを進めるかのポップアップが出てくるので、“Yes” でリトリーブを開始します。
8. リトリーブが完了すると “Next” ボタンをクリックできるようになります。
9. “Next” をクリックすると、“Completing the XVI Retrieve Wizard” ダイアログボックスが表示されます。
10. “Finish” をクリックしてリトリーブを終了します。

3.8 「Unable to raise Desktop XVI inhibit.」のメッセージが表示される



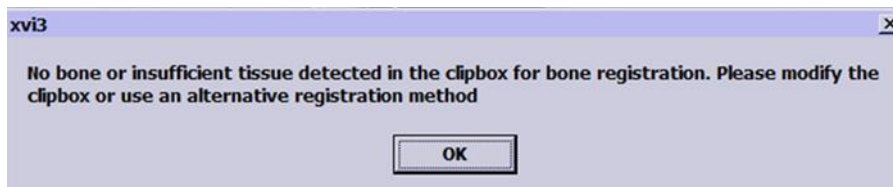
MOSAIQのカウチ移動アシスト画面が開いた状態で「Confirm Settings」をクリックすると、「Unable to raise Desktop XVI inhibit.」のメッセージが表示されます。

(対応策)

1. MOSAIQでカウチ移動アシスト画面を閉じます。
2. それでも改善しない場合は、MOSAIQのカウチ移動アシスト画面で「送信」をクリックして「閉じる」をクリックします。（前回カウチ移動アシスト画面が出たときに、「記録のみ」で閉じてしまった場合に発生することがあります）

3.9 「No bone or insufficient tissue detected in the clipbox for bone registration. . . .」

のメッセージが表示される



骨の信号値が足りない場合、「No bone or insufficient tissue detected in the clipbox for bone registration. Please modify the clipbox or use an alternative registration method」のメッセージが表示される場合があります。

(対応策)

治療中であればマニュアルでの照合やGrayvalueなど、他の方法を実施してください。

CBCTの条件 (Preset) を変更することで解決する場合があります。

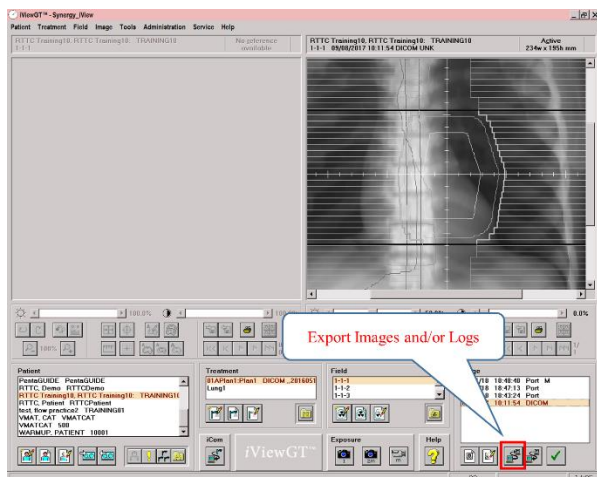
4. iViewGT

4.1 画像を DICOM データとしてメディア（USB など）に保存する

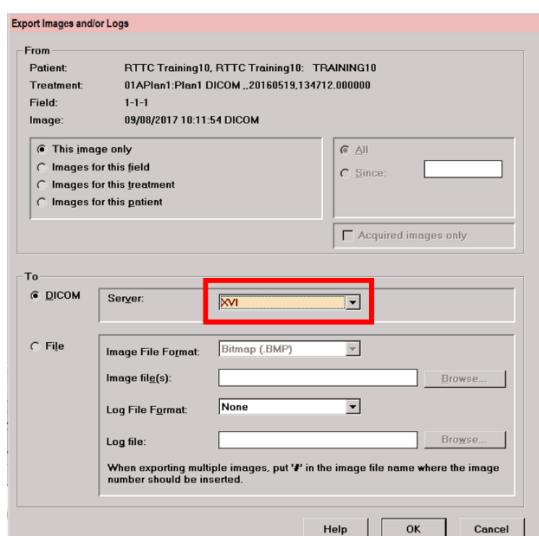
iViewGT で取得した画像を DICOM 形式で取得する場合、XVI か MOSAIQ に画像を転送し、そこから DICOM 形式で保存する必要があります。

XVI から画像を取得する手順

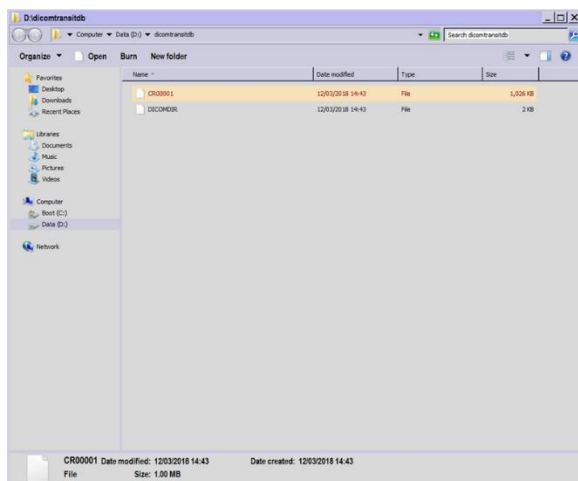
1. 該当する画像を選択し、「Export Images and/or Logs」をクリックします。



2. 送り先を XVI に指定します。（施設によっては送り先がない場合があります。）

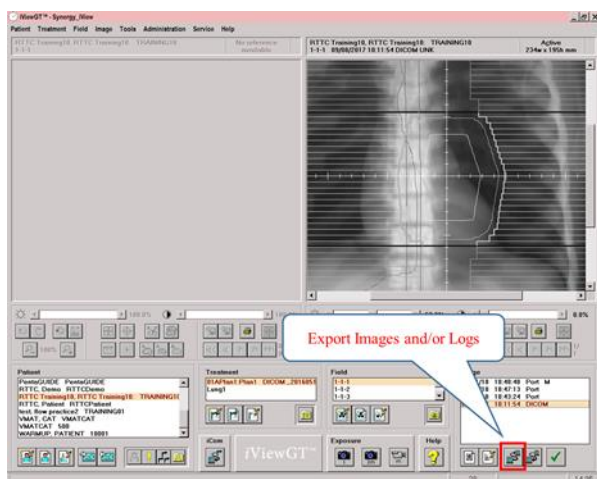


3. XVIの画面に切り替え〔スタート〕ボタンをクリック後、〔(マイ) コンピューター〕を選択します。
4. 〔Dドライブ〕を開きます。
5. Dドライブ内のフォルダーを表示後、〔dicomtransitdb〕を選択し開きます。
6. 〔dicomtransitdb〕内に該当する画像が保存されているのでメディア(USBなど)に保存してください。

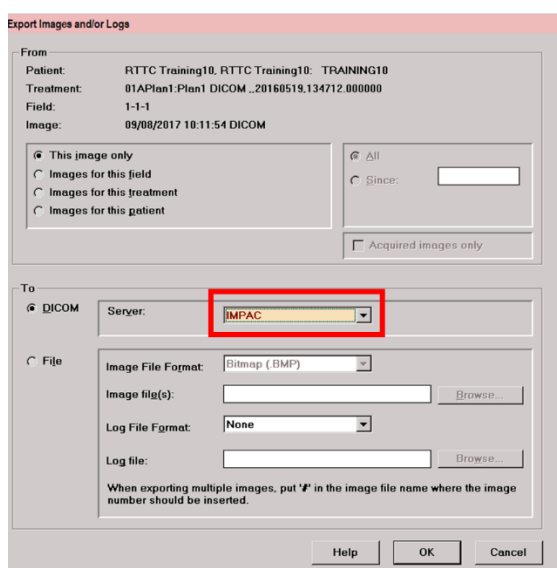


MOSAIQ から画像を取得する場合

1. 該当する画像を選択し、「Export Images and/or Logs」をクリックします。



2. 送り先をIMPACに指定します。(施設によっては送り先がない場合があります。)



3. MOSAIQ で該当患者を選択し、画像アイコンをクリック後、画像リストを開きます。



4. 該当する画像を選択し、「エクスポート」を選択します。

ステータス	日付時刻	関連先	関連名	撮像装置	投影	コピー	Field	ブロック	その他	再撮影	オフ
	2018/02/20 19:27	KV1	G0			0.1					
	2018/02/20 19:25	1-1-3	G110	KV Portal		110.0					
T	2018/02/20 19:15	CBCCT	CBCCT	DRR		0.0					
T	2018/02/20 19:15	KV2	G90	DRR		90.0					
T	2018/02/20 19:15	KV1	G0	DRR		0.0					
T	2018/02/20 19:15	1-1-4	G310	DRR		310.0					
T	2018/02/20 19:15	1-1-3	G110	DRR		110.0					
T	2018/02/20 19:15	1-1-2	G180	DRR		180.0					
T	2018/02/20 19:14	1-1-1	G0	DRR		0.0					
>	2017/08/09 10:11		G0	Portal							
	2015/10/26 14:42			CT							
	2010/07/17 18:31	サイト	Lung1	セットアップ							
	2005/03/07 6:58			ID写真							

5. 詳細オプションで設定後、ファイルにエクスポートを実施します。

Export Images - ID1: TRAINING10 RTTC TRAINING10

選択した画像のDICOM形式コピーを次の場所にエクスポート:

ファイルにエクスポート

iViewGT
XtO
XV15
DICOM Communication Module
Synergy
NRT_Direct
MD_Diest
Brainlab_ETX
AQUA

② エクスポート(E)

キャンセル(C)

① 詳細オプション(O)

DICOMエクスポート: 詳細オプション

DICOM画像オプション

既存ヘッダーをMOSAICの患者情報で上書き

オリジナルDICOM UIDを維持

関連する線量、プラン、ストラクチャをリファレンス画像と一緒にエクスポート

関連する線量、画像、ストラクチャをプランと一緒にエクスポート

ファイルオプションにエクスポート

DICOMストリームとしてエクスポート DICOMヘッダーの非識別化

DICOMファイルとしてエクスポート

ステータスバーのビューオプション

ステータスコントロールを最小化で開く

自動再試行オプション

3 再試行回数

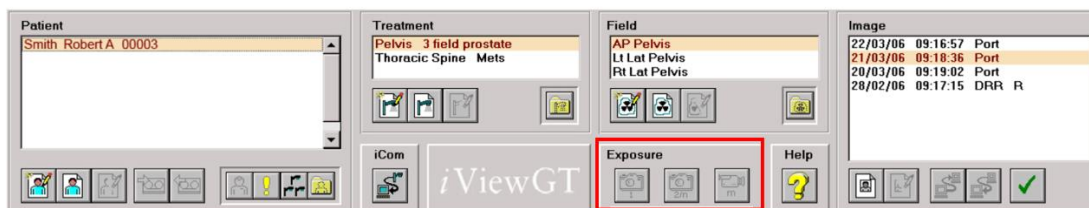
3 間隔(秒)の再試行

OK

キャンセル

6. 該当するファイルからデータを取り込みます。

4.2 Exposure（撮影）のボタンがクリックできない

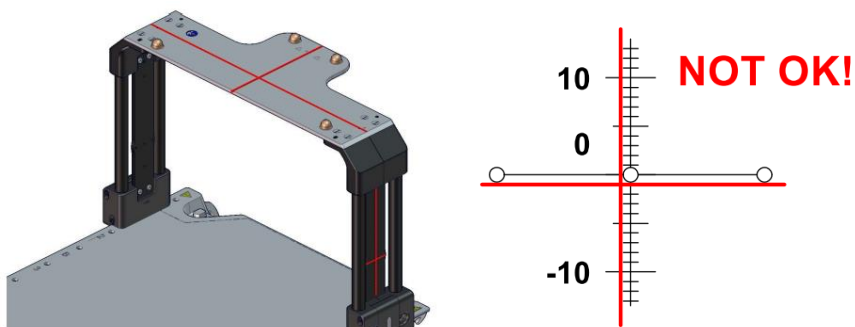


上図の、「Single Exposure」、「Double/Multiple Exposure」、「Movie Exposure」をクリックできない場合、アプリケーションの再起動を実施してください。

*再起動をしても改善されない場合や、この現象が頻発する際には弊社担当者にお問い合わせください。

5. iGUIDE

5.1 アライメントチェックでレーザーとリファレンスフレームが合わないとき



セーフティチェックを実行して、アライメントチェックでレーザーとリファレンスフレームが一致しないときは、

1. トラッキングシステムが 30 分のウォームアップ時間を経過しているか確認

(赤外線カメラはウォームアップに 30 分を要します。)

2. iGUIDE を再起動し、もう一度セーフティチェックを実行

をお願い致します。

それでもレーザーが合わないときは、サービス担当者にお問い合わせください。

5.2 スクリーンキャプチャーした画像の保存先

スクリーンキャプチャーした画像を確認する場合は以下の手順を実施してください。

1. ログイン画面で「終了」をクリックします。



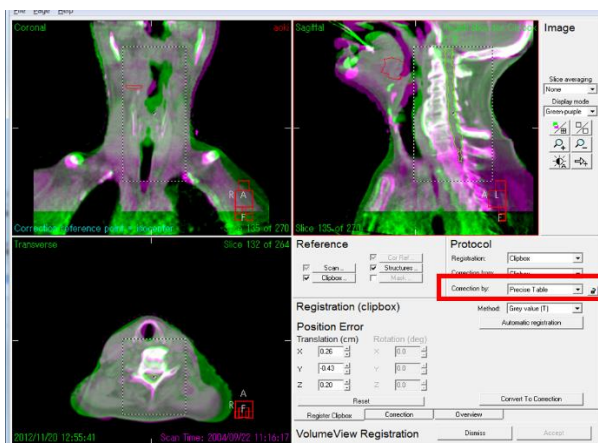
2. ログインユーザーを選択する画面が表示されます。「Elekta Service User」でログインしてください。

パスワードは「**medint11**」です。

3. 写真を保存したフォルダーがデスクトップ上にあります。その該当フォルダーから画像を確認してください。

5.3 手動転送方法

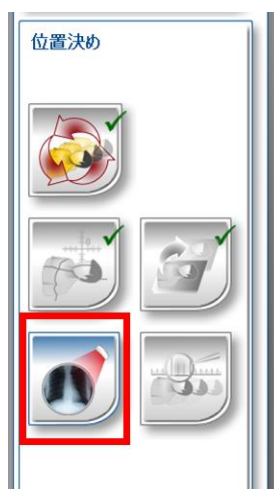
XVIからの自動転送中に問題が発生した場合や、XVIで「Correction by」を「Precise Table」に設定し自動転送されない場合、ポジションエラー補正値を手動転送することで位置補正できます。



Ex)
6軸治療の際、「Correction by」を「Precise Table」設定するとポジションエラー補正値がGuideに自動転送されません。

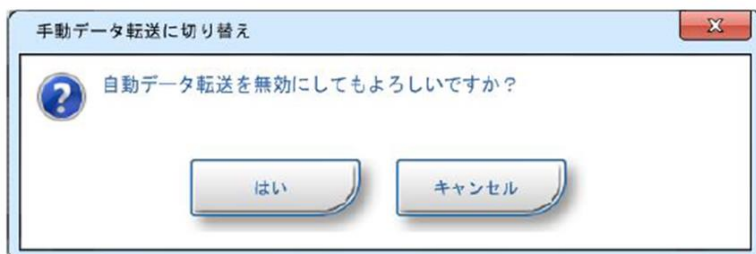
【対応方法】

1. 「手動データ転送に切り替え」ボタンをクリックします。



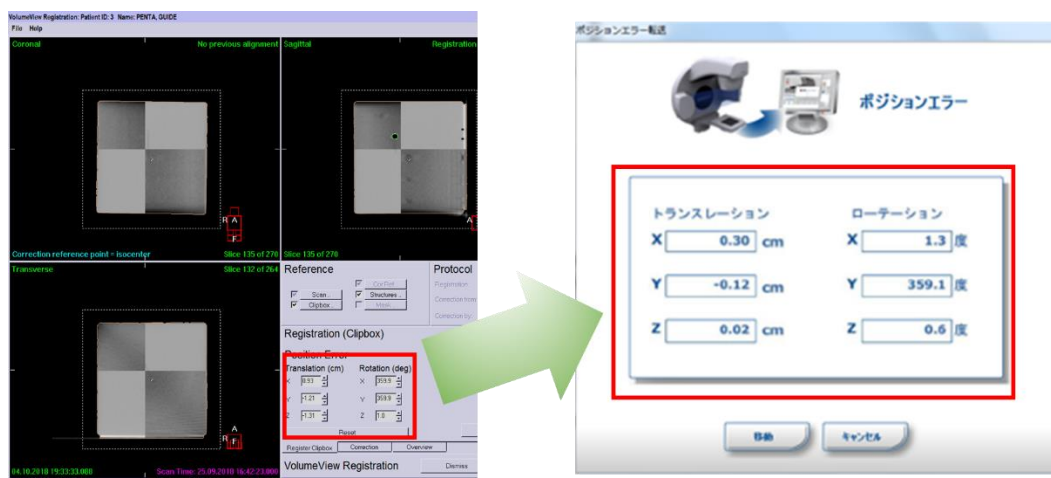
2. 「手動データ転送に切り替え」確認画面が表示されます。

手動転送する場合は「はい」をクリックしてください。



3. 「ポジションエラー転送」画面が表示されます。

ポジションエラー値を入力し移動ボタンをクリックします。



4. 安全上の理由から、「手動転送切り替え」画面が再度表示されます。

3で入力した値と同じ値を入力ください。

5. 患者の位置決めが完了した後、患者が正しい位置か必ず確認し治療を実施ください。

6. ExacTrac

6.1 MOSAIQ から ExacTrac へのデータ転送方法

MOSAIQ から ExacTrac に「プラン情報、CT 画像、ストラクチャーセット」を送る方法を記載します。



※必ず、TPS から プラン情報、CT 画像、ストラクチャーセットを同時に転送し、MOSAIQ に取り込んでおく必要があります。

※別々に送ると、TPS で Plan UID が別々に発番され、MOSAIQ で Field を選択しても、ExacTrac で正しいプランとして認識されません。

※MOSAIQ の クライアント端末からの操作をお願いします。

1. 転送したい患者を選択後、「画像」アイコンをクリックして画像リストを開きます。
2. ExacTrac へ転送したいプランの CT 画像を選択しダブルクリックします。



3. 「サイト」部分の  をクリックし、関連付けたいプラン (=処方名) を選択します。
4. フォルダボタン  をクリックし、関連付けを保存します。

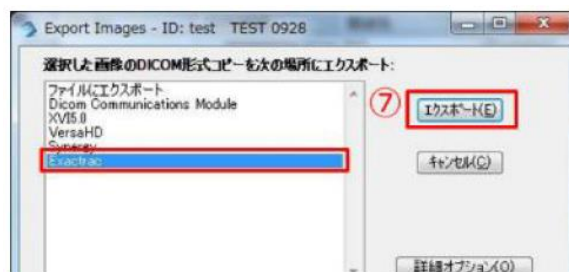


5. 再度、画像リストを表示し、ExacTrac へ転送したいプランの CT 画像をハイライトします。

6. 「エクスポート」をクリックします。



7. 「Export Images」画面で送信先に「ExacTrac」を選択し、「エクスポート」をクリックします。





初版 : 2016 年 2 月

第 2 版 : 2018 年 4 月

第 3 版 : 2020 年 7 月